

授業科目	地域保育基礎講座		単位数	2	担当教員	地域保育学科教員
講義のねらいと概要	<p>地域保育学科における3年間の学びを開始するにあたり、基礎となる様々な事項について学び、短大生として、また地域保育学科の学生として必要な知識、技能、態度等を養成する。授業担当は、地域保育学科の専任教員がリレー式で行う。</p> <p>前期において、各回の内容は基本的に以下の二つが含まれる。①短期大学での授業を受講するにあたり、必要となる「学び方」に関する知識・技能等について、②担当する専任教員の専門分野に関する講義。また、最後に全員が個人発表を行い、学習の成果を確認する。</p> <p>後期はA班「基礎学力養成コース」およびB班「保育実技体験コース」のいずれかを選択して活動を行い、更なる知識、技能、態度等の養成を図る。</p>					
授業計画	第1週	授業概要の紹介および学科専任教員の紹介		第16週	A班：オリエンテーション B班：オリエンテーション	
	第2週	①大学で何を学ぶのか、ノートの取り方(1) ②保育者に必要な基礎学力とは		第17週	A班：基礎学力養成講座(1) B班：保育実技体験(1)	
	第3週	①ノートの取り方(2) ②保育と食育		第18週	A班：基礎学力養成講座(2) B班：保育実技体験(2)	
	第4週	①テキストの読み方：より深い解読のために ②自然科学的な観点から保育のあり方を探る		第19週	A班：基礎学力養成講座(3) B班：保育実技体験(3)	
	第5週	①要約の仕方：内容本位でまとめる ②(未定)		第20週	A班：基礎学力養成講座(4) B班：保育実技体験(4)	
	第6週	①きちんと考える方法：自分の意見を言うために ②何故保育士は心理学を学ぶのか		第21週	A班：基礎学力養成講座(5) B班：保育実技体験(5)	
	第7週	①レポート・論文の書き方1：基本編 ②障害者福祉とボランティア		第22週	A班：基礎学力養成講座(6) B班：保育実技体験(6)	
	第8週	①レポート・論文の書き方2：内容編 ②保育内容・実習指導(ディベート)		第23週	A班：基礎学力養成講座(7) B班：保育実技体験(7)	
	第9週	①図書館の利用：図書館検索と資料の検索 ②ソルフエージュを基礎とした音楽理論		第24週	A班：基礎学力養成講座(8) B班：保育実技体験(8)	
	第10週	①レジュメの作り方：発表のための資料 ②保育所、幼稚園での子どもの育ちを考える		第25週	A班：基礎学力養成講座(9) B班：保育実技体験(9)	
	第11週	実習の流れと心構え ほか		第26週	A班：基礎学力養成講座(10) B班：保育実技体験(10)	
	第12週	①ゼミ発表の仕方：聞く気にさせる話し方 ②発達心理学を保育にどう生かすか		第27週	A班：基礎学力養成講座(11) B班：保育実技体験(11)	
	第13週	発表第1回		第28週	A班：基礎学力養成講座(12) B班：保育実技体験(12)	
	第14週	発表第2回		第29週	A班：後期のまとめ(1) B班：後期のまとめ(1)	
	第15週	発表第3回 前期のまとめ、後期へのオリエンテーション		第30週	A班：後期のまとめ(2) B班：後期のまとめ(2)	
指導方法 履修上の 注意	<p>今後の学習を進めていく上で非常に重要な内容であるので、必ず出席すること。もし欠席の場合は、各担当回の教員に申し出た上、事後の指導を受けること。また、レポート提出、発表前のレジュメ提出等が求められる。期限に遅れることのないよう提出のこと。</p> <p>後期のグループ選択と具体的な活動内容・日時については、前期授業において指示する。</p>					
成績評価の方法	レポート(30%)、発表(30%)、授業態度(40%)					
教科書	『大学基礎講座 改増版 充実した大学生活をおくるために』(藤田哲也ほか、北大路書房)					
参考文献	授業中に適宜紹介する。					

授業科目	日 本 国 憲 法	単位数	2	担当教員	平 田 陽 一
講義のねらいと概要	<p>国民主権・基本的人権の尊重を基本的理念とする憲法を理解するためには、その法思想的背景を理解する必要がある。これらの憲法上の法理念がわが国で生まれたものではなく、西欧で生まれた自然法思想などに由来するものだからである。しかもこれらの法理念はわが国の教育においてほとんど説明されていないものである。それが原因となって、個人的レベルでは自律した人間としての成長の阻害、社会的レベルでは他人の人権（生命・身体・自由など）に対する無思慮な侵害、国家的レベルでは民主主義の未成熟というような重要な問題を生じさせ、年々より深刻な状況に陥らせている。講義では、憲法の基本原理などについて説明をする。</p>				
授業計画	第1週	憲法について			
	第2週	自然法思想と近代立憲主義			
	第3週	近代国家と憲法			
	第4週	憲法の基本原理 = 平和主義			
	第5週	憲法の基本原理 = 国民主権主義			
	第6週	憲法の基本原理 = 人権尊重主義			
	第7週	憲法の基本原理 = 権力分立主義			
	第8週	国民の権利 = 人権			
	第9週	国民の権利 = 自由権			
	第10週	国民の権利 = 社会権			
	第11週	国民の権利 = 参政権等			
	第12週	統治機構 = 立法機関			
	第13週	統治機構 = 行政機関			
	第14週	統治機構 = 司法機関			
	第15週	憲法の現代的諸問題			
指導方法 履修上の 注 意	<p>憲法は国家（政府）と国民の関係についての基本的な法規範であり、「講義のねらいと概要」で簡単にふれたところであるが、個人の幸福や社会の一員としてのあり方と密接な関係にある。したがって、一般教養として憲法を勉強するという意識ではなく、より意欲的な、自己の人生（幸福の追求）や社会のあり方を考えるという心構えで勉強することが望まれる。</p>				
成績評価の 方 法	筆記試験（80%）、授業態度（20%）、原則として筆記試験の結果による。				
教 科 書	『現代社会の法と民法』（小野幸二編著、八千代出版）				
参 考 文 献	参考文献は初回の講義のときに説明をする。				

授業科目	情報処理	単位数	2	担当教員	星野 治
講義のねらいと概要	<p>今日の私たちにとって、日々の学習活動はもとより、就職活動や日常生活においても、コンピュータをはじめとする情報論理システムを活用することは、もはや常識となりつつあります。</p> <p>この授業では、コンピュータ利用に関する知識および技能の習得を通して、高度情報化社会に不可欠な情報処理の基礎を実践的に学習することを目的としています。</p>				
授業計画	第1週	<p>ガイダンス：コンピュータの基本操作と基本知識 タイピング練習（原則として毎回行います。以下同じ） Word アプリケーションソフト『Word』を用いた入力に必要な基本操作（日本語入力・変換方法）その他</p>			
	第2週	<p>コンピュータの基礎知識 タイピング練習 Word 文書作成の基礎、文書の管理</p>			
	第3週	<p>タイピング練習または小テスト（小テストの結果は成績評価の際に考慮されます。以下同じ） Word 文書作成と編集（書式設定、文字の装飾）</p>			
	第4週	<p>タイピング練習または小テスト Word 文書作成と編集（表を活用した文書の作成）</p>			
	第5週	<p>タイピング練習または小テスト Word 文書作成と編集（画像を用いた文書の作成）</p>			
	第6週	<p>タイピング練習または小テスト Word 文書作成と編集（図形描写などの編集操作）</p>			
	第7週	<p>タイピング練習または小テスト Excel アプリケーションソフト『Excel』に必要な基礎知識と基本操作（文字や数値の入力）</p>			
	第8週	<p>タイピング練習または小テスト Excel データの操作（セルの書式設定ほか）、ワークシートの基本操作</p>			
	第9週	<p>タイピング練習または小テスト Excel 表の作成（セルの書式設定ほか）、関数を利用した計算処理・表の作成</p>			
	第10週	<p>タイピング練習または小テスト Excel 表・グラフの作成と編集操作</p>			
	第11週	<p>タイピング練習または小テスト WordとExcelの連携操作、アプリケーションソフト『Picture Manager』の基本操作、その他</p>			
	第12週	<p>タイピング練習または小テスト PowerPoint アプリケーションソフト『PowerPoint』の基礎用語およびスライド作成の基本操作</p>			
	第13週	<p>タイピング練習または小テスト Powerpoint スライド作成における編集操作、グラフ・画像・動画の活用方法</p>			
	第14週	<p>タイピング練習または小テスト Word / Excel / PowerPoint を用いた幼児教育・保育系課題の作成</p>			
	第15週	<p>タイピング練習または小テスト 全体のまとめ</p>			
指導方法 履修上の 注意	<ol style="list-style-type: none"> <li>必ず、指定された曜日・時限（履修登録時に指示します）の授業に出席すること。</li> <li>指定された教科書を、毎回忘れずに持参すること。また、教科書の紛失に注意すること。</li> <li>基本的に、初心者への理解度に合わせた授業を行います。</li> <li>原則として毎回、最初に教科書の例題を用いて基本操作および編集方法を学び、次に応用問題（必ずしも教科書所収の問題とは限りません）に取り組むという形を取ります。</li> <li>簡単な小テスト（筆記試験、キーボード入力テスト、その他）を随時実施します。</li> <li>その他、授業内容についての詳細は、初回授業のガイダンス時に説明します。</li> </ol>				
成績評価の方法	<p>筆記試験・課題（60%）、実技（20%）、授業態度（20%）</p>				
教科書	<p>『30時間でマスター WindowsVista 対応 Office2007』（実教出版編修部（編）、実教出版） その他、必要な資料類（プリントなど）を随時配付します。</p>				
参考文献	<p>必要に応じて、随時紹介および配付します。</p>				

授業科目	英	語	単位数	2	担当教員	杉山早苗
講義のねらいと概要	<p>英語の読解力をさらに高めることを目的とする。</p> <p>Marie Killileaの「Karen」を読む。脳性麻痺というハンディを背負った少女が、周りの愛情に支えられて明るく成長する姿を母親が描いたものである。</p> <p>折に触れ、文法や文化の違いについて述べる。</p>					
授業計画	第1週	まだ身障者に対する偏見があった時代における本書の成立過程の説明及び授業の進め方。	第16週	この種の子供に対する親の叱り方についても学ぼう注意を促しながら読む		
	第2週	以降の授業については、基礎学力の不足を補う意味で、丁寧に構文や発音の指導を行う。	第17週	母親になったつもりで、ある場面を設定して叱る際の言葉を試しに英語で表現させてみる。		
	第3週	一人称の「主人公の母」の物語形式になっていることの効果を考えさせながら読む。	第18週	前の時間に書いた短文(叱り方)を写して提出させる。出来たら即座にチェックする。		
	第4週	脳性麻痺がどういう病気で、世界の現状はどうであるか知るところを話させながら読む。	第19週	平易な文章なので試験的に速読を試みる。		
	第5週	主人公カレンの家庭環境について今までに学んだことを整理させながら読む。	第20週	速読とQ and A		
	第6週	障害に関する英語表記の種々の変化について発表させ、その理由を考える。	第21週	速読とQ and A		
	第7週	カレンのおかげで家族がどう変化したか、具体的に再確認させて読む。	第22週	前の章の内容を簡単に発表できる(不足の場合は補充)習慣を徹底させながら読む。		
	第8週	カレンを中心とするエピソードの積み重ねを分類してメモさせながら読む。	第23週	自分がカレンになったつもりで、その思いを英語の短文にまとめながら読む。		
	第9週	両親の苦心とカレンの苦労。各自の単語増法を話し合わせ、助言する。	第24週	速読とQ and A		
	第10週	人間における「違い」と「差別」という問題を学生自身の問題にひきつけて考え読む。	第25週	可能ならば、同じような状況にある英米人の、新聞の人生欄への投書をプリントして読む。		
	第11週	これまでのを本文を応用しながら要約する宿題を出す 先に要約の仕方を簡単に説明する。	第26週	ヘレン・ケラーの伝記(The Story of My Life)を紹介し、その一部をプリントして読む。		
	第12週	前の時間に出した課題から選んだ幾つかの例を読んで聞かせてから続きを読む。	第27週	パール・バックの(The Child Who Never Grew)を紹介し、その一部をプリントして読む。		
	第13週	学校や世間での身体障害者に対する姿勢を現実的に考えながら読む。	第28週	これまでの重要構文や重要な慣用句の総ざらいをしながら、学生に朗読させる。		
	第14週	将来のために甘やかすまい(independence)という両親の決心をどう思うかを考え読む。	第29週	読み終わった感想を話し合い、障害者への理解と扶助を誓い合えたら成功である。		
	第15週	周囲の目からカレンを守る両親の勇気に注目しながら読む。	第30週	復習のための小テストを行っているので、最後のテストはそこから出題することを指示。		
指導方法履修上の注意	授業は基本的に、指名された人が教科書の訳の発表をする。					
成績評価の方法	筆記試験(50%)、発表(20%)、授業態度(30%)					
教科書	プリント教材を使用する。					
参考文献						

授業科目	体 育 実 技	単位数	1	担当教員	山城屋正満・岡 芳郎
講義のねらいと概要	<p>短期大学での体育は、生涯生活を健康で人間性豊かに過ごすための幅広い教養を身につける場である。健康は、スポーツ、その他の身体活動の継続的な実践により維持、増進されることが明らかにされている。健康の維持増進を狙いとして活用される運動は、多種多彩である。それぞれの運動内容は、運動様式、運動形態、運動方法などにより、質的、量的に異なる。</p> <p>体育実技は、現在までの体育的な素養を基礎とし生涯体育を念頭において、各種運動、スポーツ種目の実践を通して、身体に関する知識と各種運動の方法を知るとともに、次のような狙いを持って実習する。</p> <p>1) 心身の発育発達の促進および健康体力の維持増進のための運動方法の学習。  2) 社会性および道徳性の育成。  3) 生涯スポーツに関連した自己開発能力の育成。</p>				
授業計画	オリエンテーション 次にあげる3つのコースから選択できる。 (第10時限までは、共通)				
第1週	1) 平常コース 2) スケート教室(12月下旬 3泊4日) 3) スキー教室(2月初旬 3泊4日) (スノーボードの体験授業がある。) 上記コースについて説明。	第12週	軽スポーツ(フリスビー、フラフープなど)		
		第13週	ソフトバレーボール		
第2週	準備運動(ストレッチなど)	第14週	ソフトバレーボール		
第3週	集団行動	第15週	ソフトバレーボール		
第4週	スポーツマッサージ	第16週	卓球		
第5週	テニス	第17週	卓球		
第6週	テニス	第18週	卓球		
第7週	テニス	第19週	バスケットボール		
第8週	テニス	第20週	バスケットボール		
第9週	バドミントン	第21週	バスケットボール		
第10週	バドミントン	第22週	ドッジボール		
第11週	バドミントン	第23週	まとめ		
指導方法 履修上の 注 意	2) スケート・3) スキーコースに係る各諸費用については、全額学生の負担となる。体育着は自由である。シューズは体育館用、外用が必要である。				
成績評価の 方 法	1) 平常コース 試験(40%)、授業態度(40%)、実技(20%) 2) スケート教室 試験(40%)、授業態度(40%)、実技(20%) 3) スキー教室 試験(40%)、授業態度(40%)、実技(20%)				
教 科 書	適宜、プリントを配布。				
参 考 文 献					

授業科目	体 育 講 義	単位数	1	担当教員	山城屋正満・岡 芳郎
講義のねらいと概要	<p>短期大学における保健体育は、小学校、中学校、そして高等学校での体育、保健の学習を基礎として、生涯を健康に生きるために必要な人間の身体特性について、科学的理論に基づいた幅広い教養を身につけることである。</p> <p>運動やスポーツは、正しい理解のもとに実施される健康と体力の維持増進に寄与できる。</p>				
授業計画	第1週	現代生活と運動			
	第2週	健康と体力			
	第3週	心身の発育発達と運動学習			
	第4週	スポーツの学習			
	第5週	体力の診断と体力づくり			
	第6週	トレーニング科学			
	第7週	社会体育			
	第8週	応急処置	(第8週で終了)		
	第9週				
	第10週				
	第11週				
	第12週				
	第13週				
	第14週				
	第15週				
指導方法 履修上の 注 意	授業の開始は11月である。				
成績評価の 方 法	試験(50%)、レポート(10%)、授業態度(40%)				
教科書	適宜、プリントを配布。				
参考文献					

授業科目	心 理 学 入 門	単位数	2	担当教員	土橋 祐巳子
講義のねらいと概要	<p>我々は自分や他者のこころにしばしば興味を持つ。そのような観点からすると心理学は一般的にも興味の対象となることが多い分野であるが、一方でその内容はよく知られていない。</p> <p>本講義では、多岐にわたる様々な分野の心理学を紹介するとともに、主に人間理解の観点から心理学について学んでいく。また、本学科では様々な心理学関連科目が用意されているが、本講義を受講することによりそれらの科目をより理解するための基礎作りをしていきたい。</p>				
授業計画	第1週	科学と人間のこころ			
	第2週	心理学の歴史			
	第3週	心理学の諸領域・心理学の研究方法			
	第4週	認知からの人間理解			
	第5週	行動からの人間理解			
	第6週	パーソナリティからの人間理解(1)			
	第7週	パーソナリティからの人間理解(2)			
	第8週	人間関係からの人間理解(1)			
	第9週	人間関係からの人間理解(2)			
	第10週	心理臨床からの人間理解(1)			
	第11週	心理臨床からの人間理解(2)			
	第12週	発達からの人間理解(1)			
	第13週	発達からの人間理解(2)			
	第14週	保育に活かす心理学			
	第15週	試験			
指導方法 履修上の 注 意	<p>講義は教科書に沿って進めるが、教科書では触れていない部分も多く扱う。講義をしっかりと聴くこと。</p>				
成績評価の 方 法	<p>筆記試験(90%)、授業態度(10%)</p>				
教 科 書	<p>『新体系看護学全書 基礎科目 心理学』(田中一彦・長田久雄編、メヂカルフレンド社)</p>				
参 考 文 献	<p>講義の中で適宜紹介する。</p>				

授業科目	マンガ・イラスト表現	単位数	2	担当教員	飯田 耕一郎
講義のねらいと概要	マンガは絵と物語の両方を合わせた世界なので、デッサン、キャラクター、背景、パースなどの基本を複合的に進めていく形になると思います。絵を学ぶことで表現力が向上し、心が豊かになっていくことを考えています。				
授業計画	第1週	【 と を描こう】円と四角をちゃんと描けることが基本の基本。			
	第2週	【いろんな表情を描こう】表情が変化するパターンを学ぶ。			
	第3週	【喜怒哀楽の表情を描こう】感情表現を理解する。			
	第4週	【二頭身キャラを描こう】シンプルなマスコットキャラを描く。			
	第5週	【二頭身キャラのアクション】マスコットキャラにアクションを持たせる。			
	第6週	【三頭身キャラを描こう】ちびキャラを描く。			
	第7週	【三頭身キャラのアクション】ちびキャラにアクションを持たせる。			
	第8週	【一点透視図法を学ぼう】パースを理解する。			
	第9週	【二点透視図法と三点透視図法を学ぼう】パースを理解するの二回目。			
	第10週	【顔の角度を変えて描いてみよう】いろんな角度で顔を描けるようになる。			
	第11週	【倒れた瓶を模写してみよう】模写の仕方を学ぶ。			
	第12週	【シワの描き方を学ぼう】服などのシワの理屈を学ぶ。			
	第13週	【六頭身キャラを描いてみよう】シリアスサイズのキャラを学ぶ。			
	第14週	【全身で感情表現してみよう】感情とアクションを全身で描く。			
	第15週	【色を塗ってみよう】カラー表現を学ぶ。			
指導方法 履修上の 注意	絵を学ぶと云うことが、その他の分野での能力向上、人間性の豊かさの手助けにもなるということを念頭に置いて指導していければと考えています。				
成績評価の方法	課題（30%）、作品（20%）、実技（20%）、授業態度（30%）				
教科書	特になし。				
参考文献	特になし。				



授業科目	日 本 語 表 現	単位数	2	担当教員	高 原 典 子
講義のねらいと概要	<p>この教科では、主に児童文学における童話と絵本を中心に、読む・書く・話す・聞くという日本語表現について学びます。絵本は絵と文学で構成されていますが、簡潔でわかりやすい日本語の宝庫であると同時に、子どもに読み語るという表現力を培うことができます。</p> <p>また日本語の特性を学び、語彙を増やすために、漢字や慣用的な表現についての基礎的な知識の向上も図ります。保育者を志す過程で必要な総合的な日本語表現の習得を目指します。</p>				
授業計画	第1週	オリエンテーション：授業のねらい、絵本と童話における日本語表現について <漢字の学習>			
	第2週	<赤ちゃん絵本について>『くだもの』『もけらもけら』などを取り上げる。 <ムーミン童話における多様な表現について> <漢字の学習>			
	第3週	<赤ちゃん絵本について>『おつきさまこんばんは』の英語版と日本語版を比較し、日本語表現を考察する。 <ムーミン童話における多様な表現について> <漢字の学習>			
	第4週	<絵本を読み合うグループワーク(1)>赤ちゃん絵本を各自持参して読み合い、日本語表現を味わう。 <漢字の小テストとまとめ>			
	第5週	<3～4歳児と楽しむ絵本について>『あそぼうよ』『はじめてのおるすばん』ほか。 <ムーミン童話における多様な表現について> <熟語の学習>			
	第6週	<3～4歳児と楽しむ絵本について>『どろんこハリー』『めっきらもっきらどおんどん』ほか。 <ムーミン童話における多様な表現について> <熟語の学習>			
	第7週	<絵本を読み合うグループワーク(2)>3～4歳児と楽しめる絵本をグループで読み語る。 <熟語の小テストとまとめ>			
	第8週	<4～5歳児と楽しむ絵本について>『くまのコールテンくん』『すてきな三にんぐみ』ほか。 <慣用的な表現>			
	第9週	<4～5歳児と楽しむ絵本について>『キャベツくん』『ラチとらいおん』ほか。 <慣用的な表現>			
	第10週	<絵本を読み合うグループワーク(3)>4～5歳児と楽しめる絵本をグループで読み語る。 <慣用的な表現>			
	第11週	<5～6歳児と楽しむ絵本について>『はちうえはばくにまかせて』『だいくとおにろく』ほか。 <慣用的な表現について的小テストとまとめ>			
	第12週	<5～6歳児と楽しむ絵本について>『おしいれのぼうげん』『かぜはどこへいくの』など。			
	第13週	<絵本を読み合うグループワーク(4)>5～6歳児と楽しめる絵本をグループで読み語る。			
	第14週	<絵本の文章表現について考える> 絵本の文字なしの画面を見ながら、各自が場面に合う文章を創作してみる。それをもとに日本語の表現について考える。			
	第15週	総括			
指導方法履修上の注意	<p>本教科では、保育実践に役立つような絵本の読み語りのグループ演習を行います。</p> <p>また毎回、漢字および慣用的な表現などの基礎的な国語の学習も行います。知識の定着を図るために小テストもしますので、各自ワークシートを基に授業の復習を行ってください。</p>				
成績評価の方法	筆記試験(30%)、授業中の小レポート(30%)、絵本の読み語り演習(20%)、授業態度(20%)				
教科書	指定なし。 授業中、必要に応じてプリントを配布します。				
参考文献	『すてきな絵本にであえたら』(工藤左千夫 成文社)、『ムーミン童話全集』(トーベ・ヤンソン作絵 山室静ほか訳 講談社)、『基礎からの国語表現の実践』(樺島忠夫他著 京都書房)、『日本語表現のレッスン』長沼行太郎ほか著(教育出版)』				

授業科目	生 命 と 科 学	単位数	2	担当教員	星 野 治																														
講義のねらいと概要	<p>この授業では、第一級の研究者によって執筆された科学エッセイを通読しながら、《過去・現在・未来におけるわれわれ自身のありかた》を考えます。</p> <p>上記の《テーマ》は確かに、内容的にはかなり難しいものです。しかし、その《テーマ》が私たち各人にとって、避けて通るわけにはいかない重要なものの一つであることに、変わりはありません。今回の授業を通して、上記の《テーマ》へ少しでも関心を寄せていただければ幸いです。</p> <p>また、今回の授業で扱うテキストは、“高度な内容を平易な言葉で記す”ことに徹した文章の好例です。この種の科学文献を早くから読み慣れておくことも、この授業のねらいの一つです。</p>																																		
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>第1週</td> <td>【ガイダンス】 授業全体の流れについて理解し、授業内容の雰囲気をつかんでいただきます。</td> </tr> <tr> <td>第2週</td> <td>【テキスト輪講（1）】第1章 宇宙の始まり テキストの前半（第1章～第6章）では、宇宙全体の姿を主に“マクロ”の視点で概観します。</td> </tr> <tr> <td>第3週</td> <td>【テキスト輪講（2）】第2章 元素はどこからきたのか</td> </tr> <tr> <td>第4週</td> <td>【テキスト輪講（3）】第3章 宇宙をおおう大規模構造</td> </tr> <tr> <td>第5週</td> <td>【テキスト輪講（4）】第4章 さまざまなタイプの銀河の誕生</td> </tr> <tr> <td>第6週</td> <td>【テキスト輪講（5）】第5章 星が生まれる現場</td> </tr> <tr> <td>第7週</td> <td>【テキスト輪講（6）】第6章 ブラックホールのつくり方</td> </tr> <tr> <td>第8週</td> <td>【閑話休題（1）】 テキストの前半の内容に関連する、さまざまな話題を取り上げます。</td> </tr> <tr> <td>第9週</td> <td>【テキスト輪講（7）】第7章 太陽系の誕生 テキストの後半（第7章～第11章）では、生命誕生の過程を“マクロ→ミクロ”の視点で概観します。</td> </tr> <tr> <td>第10週</td> <td>【テキスト輪講（8）】第8章 水惑星・地球へ</td> </tr> <tr> <td>第11週</td> <td>【テキスト輪講（9）】第9章 生命の起源</td> </tr> <tr> <td>第12週</td> <td>【テキスト輪講（10）】第10章 人類までの道のり</td> </tr> <tr> <td>第13週</td> <td>【テキスト輪講（11）】第11章 生命・物理現象と多様性</td> </tr> <tr> <td>第14週</td> <td>【閑話休題（2）】 テキストの後半の内容に関連する、さまざまな話題を取り上げます。</td> </tr> <tr> <td>第15週</td> <td>【全体のまとめ】 授業内容全体の総括を行います。</td> </tr> </table>					第1週	【ガイダンス】 授業全体の流れについて理解し、授業内容の雰囲気をつかんでいただきます。	第2週	【テキスト輪講（1）】第1章 宇宙の始まり テキストの前半（第1章～第6章）では、宇宙全体の姿を主に“マクロ”の視点で概観します。	第3週	【テキスト輪講（2）】第2章 元素はどこからきたのか	第4週	【テキスト輪講（3）】第3章 宇宙をおおう大規模構造	第5週	【テキスト輪講（4）】第4章 さまざまなタイプの銀河の誕生	第6週	【テキスト輪講（5）】第5章 星が生まれる現場	第7週	【テキスト輪講（6）】第6章 ブラックホールのつくり方	第8週	【閑話休題（1）】 テキストの前半の内容に関連する、さまざまな話題を取り上げます。	第9週	【テキスト輪講（7）】第7章 太陽系の誕生 テキストの後半（第7章～第11章）では、生命誕生の過程を“マクロ→ミクロ”の視点で概観します。	第10週	【テキスト輪講（8）】第8章 水惑星・地球へ	第11週	【テキスト輪講（9）】第9章 生命の起源	第12週	【テキスト輪講（10）】第10章 人類までの道のり	第13週	【テキスト輪講（11）】第11章 生命・物理現象と多様性	第14週	【閑話休題（2）】 テキストの後半の内容に関連する、さまざまな話題を取り上げます。	第15週	【全体のまとめ】 授業内容全体の総括を行います。
第1週	【ガイダンス】 授業全体の流れについて理解し、授業内容の雰囲気をつかんでいただきます。																																		
第2週	【テキスト輪講（1）】第1章 宇宙の始まり テキストの前半（第1章～第6章）では、宇宙全体の姿を主に“マクロ”の視点で概観します。																																		
第3週	【テキスト輪講（2）】第2章 元素はどこからきたのか																																		
第4週	【テキスト輪講（3）】第3章 宇宙をおおう大規模構造																																		
第5週	【テキスト輪講（4）】第4章 さまざまなタイプの銀河の誕生																																		
第6週	【テキスト輪講（5）】第5章 星が生まれる現場																																		
第7週	【テキスト輪講（6）】第6章 ブラックホールのつくり方																																		
第8週	【閑話休題（1）】 テキストの前半の内容に関連する、さまざまな話題を取り上げます。																																		
第9週	【テキスト輪講（7）】第7章 太陽系の誕生 テキストの後半（第7章～第11章）では、生命誕生の過程を“マクロ→ミクロ”の視点で概観します。																																		
第10週	【テキスト輪講（8）】第8章 水惑星・地球へ																																		
第11週	【テキスト輪講（9）】第9章 生命の起源																																		
第12週	【テキスト輪講（10）】第10章 人類までの道のり																																		
第13週	【テキスト輪講（11）】第11章 生命・物理現象と多様性																																		
第14週	【閑話休題（2）】 テキストの後半の内容に関連する、さまざまな話題を取り上げます。																																		
第15週	【全体のまとめ】 授業内容全体の総括を行います。																																		
指導方法 履修上の 注 意	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 特別な専門知識を事前にもっていることは、前提としません。</li> <li>2. テキストを毎回、忘れずに持参すること。</li> <li>3. テキスト全体は、全部で11の章に分かれています。1つの章を授業1回分程度で読了することを目標としますが（上記「授業計画」を参照）、内容に応じて適宜調整します。</li> <li>4. 事前に指示された場合を除き、各回分の予習は必須です。</li> <li>5. 授業期間中に随時、レポートを提出していただきます。</li> </ol>																																		
成績評価の 方 法	レポート（70%）、授業態度（30%）																																		
教 科 書	『宇宙と生命の起源——ビッグバンから人類誕生まで——（岩波ジュニア新書 477）』（嶺重慎・小久保 英一郎(編著)、岩波書店)																																		
参 考 文 献	必要に応じて随時紹介します。																																		

授業科目	教 育 原 理	単位数	2	担当教員	金子 真由子
講義のねらいと概要	<p>これからの教育のあり方について考える態度を身につけるために、教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想、教育に関する社会的事項について学ぶ。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <p>教育の目的、方法、評価について理解し、説明できる。</p> <p>教育の基本的な原理を理解し、現代の教育の特徴や構造について説明できる。</p> <p>教育の現状と課題について深く考え説明できる。</p>				
授業計画	第1週	授業ガイダンス：教育を受けるものから、する者へのまなざしの転換			
	第2週	教育とは何か：教育の目的			
	第3週	学校とは何か（1）：学校の成り立ち			
	第4週	学校とは何か（2）：学校空間の特徴			
	第5週	子どもとは何か：子どもへのまなざし			
	第6週	保育・教育思想（1）：コメニウス、ルソー、ペスタロッチなど			
	第7週	保育・教育思想（2）：フレーベル、デューイ、モンテッソーリなど			
	第8週	学ぶこと、教えること			
	第9週	「遊び」とは何か：幼児教育における遊び			
	第10週	カリキュラムと評価			
	第11週	日本の近代化と学校教育			
	第12週	現代社会と教育問題			
	第13週	教育の法的な側面：権利としての教育			
	第14週	教育の今日的課題			
	第15週	試験・まとめ			
指導方法 履修上の 注 意	<p>プリントを配布するので、プリントや学習内容を記録したものを1冊のノート（ファイル）にまとめること。</p> <p>グループワークや討論、発表などを適宜組み込むので、授業には積極的に参加すること。</p>				
成績評価の方法	筆記試験（60％）、課題（20％）、授業態度（20％）				
教科書	特になし。				
参考文献	『教育原理』（広田照幸・塩崎美穂、樹村房）				

授業科目	保 育 原 理	単位数	2	担当教員	土 屋 由
講義のねらいと概要	<p>保育所・幼稚園は、常に、子どもの生活にふさわしい場になりえているか、遊びを中心とした保育内容と保育者の意図が含まれた保育・教育の展開がなされているかが問われている。</p> <p>講義では、子どもの捉え方を含めた保育の基本的な考え方、環境構成や子どもにとっての遊びの重要性、子どもの発達や年齢に応じた配慮及び留意点、保育課程・教育課程や指導計画、さらには保育思想を学び、子どもの生活に“ふさわしい”保育の原理を理解するために必要な知識や基本的な考え方を身につけることをねらいとする。</p>				
授業計画	第1週	オリエンテーション			
	第2週	さまざまな子どもが育つ場所			
	第3週	幼稚園・保育所のしくみ			
	第4週	幼稚園の一日、保育園の一日			
	第5週	保育の基本的な考え方 子どもの主体性を尊重する			
	第6週	遊びを中心とする保育			
	第7週	環境を通しての育ち			
	第8週	子ども一人ひとりの発達過程を捉える			
	第9週	個と集団			
	第10週	保育課程・教育課程と指導計画			
	第11週	子どもの生活と遊び			
	第12週	子どもと自然			
	第13週	子どもと文化			
	第14週	保育者に求められるもの			
	第15週	まとめ			
指導方法 履修上の 注 意	他の受講生の意見や考え方を聞き、自分の考えと相対化することで自分の考えをさらに深めてほしい。				
成績評価の 方 法	筆記試験（70％）、課題（20％）、授業態度（10％）				
教 科 書	『幼稚園教育要領・保育所保育指針』（文部科学省・厚生労働省、チャイルド社）				
参 考 文 献	授業において紹介する。				

授業科目	教 育 心 理 学	単位数	2	担当教員	上原 友紀子
講義のねらいと概要	<p>本講義では、発達・認知・臨床・社会など心理学諸領域の基礎を幅広く学び、教育実践との関わりについて考えることを目的とします。各領域における古典的研究を基礎として、一見スモールステップの研究の蓄積がどのように、人間の複雑な心的処理の理解につながっていくのかということに注目しつつ講義を行っていきます。理解を深めるために、視聴覚教材やデモンストレーションなどを利用した授業を行います。</p>				
授業計画	第1週	イントロダクション：心理学とはどのような学問なのかについて知る。			
	第2週	心理学の方法論：心理学を「科学」として捉え、その方法論の特性や目的について知る。			
	第3週	知覚心理学：錯覚：錯視図形を通して、知覚の騙されやすさについて知る。			
	第4週	学習心理学：条件づけ：条件づけに関する諸理論を知り、日常経験にひきつけて考える。			
	第5週	発達心理学①：発達とは：発達という概念、及び発達段階説について知る。			
	第6週	発達心理学②：言語の発達：「言語」の発達について知る。			
	第7週	発達心理学③：道徳性の発達：「道徳性」の発達について知る。			
	第8週	発達心理学④：発達障害：発達障害について学び、その支援について考える。			
	第9週	認知心理学①：記憶：記憶及び、認知を情報処理とみなす見方について知る。			
	第10週	認知心理学②：問題解決：問題解決過程における人間の思考について学習する。			
	第11週	認知心理学③：論理的判断：人間の論理的判断、及びそれに影響を与える諸要因について知る。			
	第12週	認知心理学④：文章理解：「テキストを理解する」と「テキストの内容を理解する」の違いを知る。			
	第13週	社会心理学①：対人関係：印象形成など、日常の対人場面における社会心理学について知る。			
	第14週	社会心理学②：帰属理論：帰属に関する諸理論を知り、思考の左右されやすさについて考える。			
	第15週	試験・まとめ：これまでの講義内容の理解を問う試験、及びまとめのディスカッションを行う。			
指導方法 履修上の 注 意	<p>「心理学」という学問について具体的なイメージを持ち、自分の日常の思考や経験を心理学と結びつけて理解することを楽しんでみてください。また、講義から興味・関心を持った事柄について、自ら調べたり、またその過程で、積極的に興味関心を持つ事柄を探すこと・そこから発展的に思考を広げること・調べるテクニックを身につけることも意識してほしいと思います。</p>				
成績評価の 方 法	筆記試験（50%）、授業態度（50%）				
教 科 書	特に設定しません。講義の中で都度、関連書籍について紹介します。				
参 考 文 献	講義の中で都度、関連書籍について紹介します。また、予習復習をしたい場合は『心理学』（鹿取廣人・杉本敏夫(編)、東京大学出版会)を参考にしてください。				

授業科目	発達心理学	単位数	2	担当教員	伊藤明芳
講義のねらいと概要	<p>保育者が子ども（保護者）の問題や課題に向き合う時、人の心身の発達の基本的、標準的な様相やその概要等を学んでおくことは有益である。それらが、保育者として、さまざまな子どもの問題を考えていく際の大切な基礎となる。</p> <p>本講義では、発達心理学の必要な基礎的知識の習得と将来現場で活かせる基本的な実践能力の育成を図ることを目的とする。</p>				
授業計画	第1週	イントロダクション [ 発達心理学を学ぶ意義など ]			
	第2週	発達を理解するための基礎 [ 発達を考える ]			
	第3週	発達を理解するための基礎 [ 研究方法、子どもの心身発達の基本原理等 ]			
	第4週	発達を理解するための基礎 [ 発達の理論とは何か ]			
	第5週	知的側面の発達 [ 基本理論の概要 ]			
	第6週	知的側面の発達 [ 理論の活用を考える ]			
	第7週	情緒的発達 [ 情緒的発達の過程 ]			
	第8週	情緒的発達 [ 基本理論の概要 ]			
	第9週	情緒的発達 [ 理論の特徴 ]			
	第10週	情緒的発達 [ 理論の活用を考える ]			
	第11週	発達障害 [ 発達障害とは何か ]			
	第12週	発達障害 [ 発達障害の種類 ]			
	第13週	発達障害 [ 理解と対応を考える ]			
	第14週	まとめ			
	第15週	今後へのアドバイスと試験			
指導方法 履修上の 注意	<p>講義を中心におこなう。実際の事例などをあげ、受講生にわかりやすい内容を心がけたい。その他、事例研究やビデオ視聴等で理解を深め、それを保育の実践に活かすことを考える。受講者には自ら学び考える意欲をもって授業に参加する態度が求められる。</p>				
成績評価の 方法	筆記試験（60％）、レポート（40％）				
教科書	特に指定しない				
参考文献	講義の際に随時紹介				

授業科目	子どもの保健 I		単位数	4	担当教員	駒松仁子
講義のねらいと概要	<p>子どもの保健は子どもの心身の健康増進を図ることを目的とする。乳幼児期は人間の一生の基盤になる。子どもの成長発達を理解し、心身ともに健やかな発育ができる支援および、病気の予防や子どもによく見られる病気、さらには事故防止の対策などについて学ぶ。</p> <p>到達目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 保育の場における保健活動の意義およびわが国の小児保健水準が理解できる。</li> <li>2) 各発達段階における発育・発達の特徴と評価および保健が理解できる。</li> <li>3) 生活環境が子どもの心身に及ぼす影響について理解できる。</li> <li>4) 子どもによく見られる病気の予防方法、病気の原因・症状・治療について理解できる。</li> <li>5) 子どもの事故の現状を理解し、発達段階に応じた事故防止について理解できる。</li> </ol>					
授業計画	第1週	子どもの心身の健康と保健の意義	第16週	子どもの生活環境と心の健康		
	第2週	子どもの心身の健康と保健活動（地域を含む）	第17週	病気の予防と保健指導： （感染予防の原則、学校感染症、予防接種）		
	第3週	わが国の小児保健水準（1）	第18週	子どもの病気と保育：感染症（1） （麻疹、風疹、水痘、手足口、伝染性紅斑など）		
	第4週	わが国の小児保健水準（2）	第19週	子どもの病気と保育：感染症（2） （流行性耳下腺炎、インフルエンザ、百日咳など）		
	第5週	発育・発達段階の特性と保健	第20週	子どもの病気と保育：呼吸器疾患、耳・のどの疾患（気管支炎、肺炎、扁桃炎、中耳炎など）		
	第6週	身体発育とその評価	第21週	子どもの病気と保育：消化器疾患 （幽門狭窄症、腸重積症、感染性下痢症など）		
	第7週	脳神経・感覚器の発達と保健	第22週	子どもの病気と保育：アレルギー疾患（1） （アレルギーとは、気管支喘息）		
	第8週	運動機能の発達と評価	第23週	子どもの病気と保育：アレルギー疾患（2） （アトピー性皮膚炎、食物アレルギー）		
	第9週	精神機能の発達と評価（1）（言語・情緒）	第24週	子どもの病気と保育：腎・泌尿器疾患 （腎炎、ネフローゼ候群、尿路感染症）		
	第10週	精神機能の発達と評価（2）（社会性・知能）	第25週	子どもの病気と保育：内分泌疾患 （糖尿病、成長ホルモン分泌不全低身長など）		
	第11週	生理機能の発達と保健（1）（呼吸、循環）	第26週	子どもの病気と保育：血液疾患、小児がん （貧血、血友病、白血病など）		
	第12週	生理機能の発達と保健（2）（体温、水分代謝）	第27週	子どもの病気と保育：循環器疾患、けいれん性疾患 （心疾患、熱性けいれん、てんかんなど）		
	第13週	生理機能の発達と保健（3）（消化・吸収、排泄）	第28週	子どもの病気と保育：染色体異常・先天性代謝異常 （ダウン症、フェニルケトン尿症など）		
	第14週	生理機能の発達と保健（4）（睡眠、免疫）	第29週	保育現場における子どもの事故と安全対策（1）		
	第15週	生理機能の発達と保健（5）（内分泌） 試験	第30週	子どもの事故と安全対策（2） 試験		
指導方法 履修上の 注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料を用いて講義を行う。</li> <li>・視聴覚機器（スライド・ビデオ・DVDなど）の使用により、学習内容を具体的に提示して、理解が深まるように指導する。</li> </ul>					
成績評価の 方法	筆記試験（80%）、授業態度（20%）					
教科書	指定なし。授業の都度、資料を配布する。					
参考文献	授業の都度、参考文献を提示する。					

授業科目	社 会 福 祉	単位数	2	担当教員	秋 山 展 子
講義のねらいと概要	本講義では、現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係、福祉政策におけるニーズと資源、福祉政策の構成要素やその課題などについて学ぶことを目的としている。				
授業計画	第1週	社会福祉の新たな展開			
	第2週	福祉政策理解の枠組み			
	第3週	社会の変化と福祉			
	第4週	福祉と福祉政策			
	第5週	福祉の思想と哲学			
	第6週	社会政策と福祉政策			
	第7週	福祉政策の発展過程			
	第8週	少子高齢化時代の福祉政策			
	第9週	福祉政策における必要と資源			
	第10週	福祉政策の理念・主体・手法			
	第11週	福祉政策の関連領域			
	第12週	社会福祉制度の体系			
	第13週	福祉サービスの提供			
	第14週	福祉政策の国際比較			
	第15週	試験およびこれまでのまとめ			
指導方法 履修上の 注 意					
成績評価の 方 法	筆記試験（60%）、レポート（10%）、授業態度（30%）				
教 科 書	授業でプリント配布				
参 考 文 献	『新・社会福祉士養成講座 第4巻 現代社会と福祉 第3版』（社会福祉士養成講座編集委員会 編集、中央法規出版）				



授業科目	児童家庭福祉	単位数	2	担当教員	秋山展子
講義のねらいと概要	現代社会における児童の成長・発達、生活実態や児童福祉の背景、児童福祉の理念や意義について学ぶ。児童福祉関係法とサービス体系の供給、専門職のあり方や児童福祉と環境との関わりの問題、相談援助活動や家族支援のための施策等について理解する。				
授業計画	第1週	現代社会と子ども家庭			
	第2週	子どもの育ち、子育てのニーズ			
	第3週	子ども家庭福祉とは何か			
	第4週	子どもと家庭の権利保障			
	第5週	子ども家庭福祉にかかわる法制度			
	第6週	子ども家庭福祉の実施体制			
	第7週	子ども家庭福祉の専門職			
	第8週	子ども家庭にかかわる福祉・保健			
	第9週	児童健全育成			
	第10週	ひとり親家庭の福祉			
	第11週	児童虐待対策			
	第12週	非行児童・情緒障害児への支援			
	第13週	子どもと家庭にかかわる女性福祉			
	第14週	子ども家庭への援助活動			
	第15週	試験およびこれまでのまとめ			
指導方法 履修上の 注意					
成績評価の 方法	筆記試験（60％）、レポート（10％）、授業態度（30％）				
教科書	授業でプリント配布				
参考文献	『新・社会福祉士養成講座 第15巻児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 第4版』 （社会福祉士養成講座編集委員会 編集、中央法規出版）				

授業科目	音楽（基礎音楽）		単位数	2	担当教員	大輪公彦
講義のねらいと概要	幼児教育者として必要な音楽の基礎知識を学ぶと共に、音楽教育技術を身につけることを目的とする。					
授業計画	第1週	楽典（譜表）	第16週	合奏の必要性と編曲		
	第2週	（音名・階名）	第17週	合奏の指導法・演奏法		
	第3週	（楽語）	第18週	リズム楽器の演奏法		
	第4週	（省略記号）	第19週	伴奏楽譜を使用した編曲法		
	第5週	（音程）	第20週	〃		
	第6週	（調について）	第21週	オリジナルの編曲		
	第7週	（和音）	第22週	〃		
	第8週	コードネームを使用した伴奏付け	第23週	発表		
	第9週	コードネームの理解	第24週	簡単な言葉によるメロディー創り		
	第10週	伴奏形の理解	第25週	〃		
	第11週	調性音楽における主要三和音	第26週	言葉とリズムの関係(リズム唱の説明)		
	第12週	伴奏譜作成	第27週	〃		
	第13週	〃	第28週	記譜法		
	第14週	〃	第29週	発表		
	第15週	まとめ	第30週	まとめ		
指導方法 履修上の 注意	講義内容を理解出来ないまま終わらせたくありません、質問を歓迎します。 （授業時間外でもかまいません） 授業中の私語は真面目に受講している者にとって迷惑です。厳しく注意します。					
成績評価の 方法	筆記試験（30％）、レポート（20％）、課題（10％）、作品（10％）、発表（10％） 実技（10％）、授業態度（10％）					
教科書	『「幼児の音楽教育」-音楽表現の指導-』（音楽教育研究協会）					
参考文献	『改訂・楽器奏法の基礎指導』（大山美和子編、音楽教育研究協会） 『実用こどものうた』（田口・高崎編、カワイ出版）					

授業科目	総合演習			単位数	2	担当教員	橋本洋子・星野治・高原典子		
講義のねらいと概要	<p>現代は少子社会が進む中様々な対策がなされているが、子どもが安心して育つ環境が十分に整えられているとはいえない。</p> <p>そこで、本演習では食育、児童文化財、防災など子どもを取り巻く環境の実状を理解し、視野を広げるとともに、保育者として適切な対応ができる保育力を養成する。</p>								
授業計画	第1週	合同授業 本演習のねらい・進め方などに関する説明			第16週	(星野)	(高原)	(橋本)	
	第2週	(橋本) 演習の方針	(星野) 演習の方針	(高原) 演習の方針	第17週	第7週 ~第10週 と同じ	第7週 ~第10週 と同じ	第7週 ~第10週 と同じ	
	第3週	子どもの食生活の現状	防災の基礎知識	手あそびの発表	第18週				
	第4週	論文の検索と読み方	文芸作品と防災(1)	手あそびの創作と発表	第19週				
	第5週	健康を考える(1)	文芸作品と防災(2)	保育実技の論文を読む1	第20週	(高原)	(橋本)	(星野)	
	第6週	健康を考える(2)	保育と防災	手袋人形の創作	第21週	第2週 ~第10週 と同じ	第2週 ~第10週 と同じ	第2週 ~第10週 と同じ	
	第7週	文献調査	文芸作品と防災(3)	手袋人形の創作	第22週				
	第8週	研究発表準備	文芸作品と防災(4)	手袋人形の演じ方	第23週				
	第9週	研究発表(1)	防災関連の最新情報	保育実技の論文を読む2	第24週				
	第10週	研究発表(2) 演習まとめ	演習まとめ	論文の要旨をまとめる	第25週				
	第11週	(星野)	(高原)	(橋本)	第26週				
	第12週	第2週 ~第6週 と同じ	第2週 ~第6週 と同じ	第2週 ~第6週 と同じ	第27週				
	第13週				第28週				
	第14週				第29週	合同授業 総合演習 への準備、その他			
	第15週	第30週	合同授業 全体のまとめ						
指導方法 履修上の 注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年を3つのグループに分け、教員ごとに9回単位ずつの演習を行う。</li> <li>・グループごとの演習期間中は(第2週~第28週)、調査・討議・発表を中心に行うので、各自、担当教員の指導に従って積極的にテーマに取り組むこと。</li> <li>・調査等については、授業時間外に実施することがある。</li> </ul>								
成績評価の方法	レポート(40%)、発表(40%)、授業態度(20%)								
教科書	各学生のテーマに沿った教科書を、必要に応じて随時紹介する。 入手困難な資料類は、担当教員が準備する。								
参考文献	各学生のテーマに沿った参考文献を、必要に応じて随時紹介する。 入手困難な資料類は、担当教員が準備する。								

授業科目	総合演習（卒業研究）		単位数	2	担当教員	岸井慶子
講義のねらいと概要	<p>保育、幼児教育に関連する幅広い分野から学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。講義は、少人数によるゼミナール形式で行われる。また、論文提出後には発表会が行われる。このことを通じ、保育者として必要な専門的知識をさらに深める。</p> <p>研究テーマとしては、幼稚園・保育所・認定こども園での「保育・教育内容」「環境の構成と保育者の援助」「子ども同士の人間関係」など。実際に保育の現場に定期的に通い、参与観察を行い、記録をもとに分析・考察を積み重ねて論文としてまとめることを目的とする。</p>					
授業計画	第1週	授業の進め方	第16週	研究論文の執筆		
	第2週	保育観察の方法、記録の方法	第17週	研究論文の執筆		
	第3週	幼稚園・保育所 見学	第18週	研究論文の執筆		
	第4週	幼稚園・保育所 見学	第19週	研究論文の執筆		
	第5週	研究テーマの選定・計画	第20週	研究論文の執筆		
	第6週	研究テーマの選定・計画	第21週	研究論文の執筆		
	第7週	文献・資料収集、観察	第22週	研究論文の執筆		
	第8週	文献・資料収集、観察	第23週	研究論文の執筆		
	第9週	観察記録発表、討議、検討	第24週	中間発表		
	第10週	観察記録発表、討議、検討	第25週	論文の修正		
	第11週	観察記録発表、討議、検討	第26週	論文の修正		
	第12週	観察記録発表、討議、検討	第27週	論文の修正		
	第13週	観察記録発表、討議、検討	第28週	論文発表		
	第14週	観察記録発表、討議、検討	第29週	論文発表		
	第15週	論文執筆の説明	第30週	まとめ		
指導方法履修上の注意	自分の研究テーマを明確にし、積極的に取り組むことを期待する。					
成績評価の方法	論文（70％）、発表（20％）# 提出後、指導教員から修正を求められた場合は、その作業も発表に含み評価を行う、授業態度（10％）					
教科書	特に指定しない					
参考文献	授業の中で、必要に応じて紹介する					

授業科目	総合演習（卒業研究）		単位数	2	担当教員	橋本洋子
講義のねらいと概要	<p>保育、幼児教育に関連する幅広い分野から学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。講義は、少人数によるゼミナール形式で行われる。また、論文提出後には発表会が行われる。このことを通じ、保育者として必要な専門的知識をさらに深める。</p> <p>研究テーマとしては、子ども・保護者・保育者など子どもを取り巻く食環境や健康全般にわたる。「食物アレルギー」「母乳」「妊産婦の食生活」「食教育」「子どもの肥満」「好き嫌いと偏食」などを中心とし、保育所等でのフィールドワーク、文献研究、調査等から論文としてまとめる。</p>					
授業計画	第1週	講義の方針と進め方について	第16週	論文の執筆・フィールドワーク		
	第2週	各学生により研究テーマの選定・計画	第17週	論文の執筆・フィールドワーク		
	第3週	各学生により研究テーマの選定・計画	第18週	論文の執筆・フィールドワーク		
	第4週	各学生により研究テーマの選定・計画	第19週	論文の執筆・フィールドワーク		
	第5週	文献・資料収集、観察	第20週	論文の執筆・データ解析		
	第6週	文献・資料収集、観察	第21週	論文の執筆・データ解析		
	第7週	文献・資料収集、観察	第22週	論文の執筆・データ解析		
	第8週	先行研究の発表	第23週	論文の執筆・データ解析		
	第9週	先行研究の発表	第24週	論文の執筆・データ解析		
	第10週	先行研究の発表	第25週	論文の修正		
	第11週	研究内容の方向づけ	第26週	論文の修正		
	第12週	研究内容の方向づけ	第27週	論文の修正		
	第13週	論文執筆の説明	第28週	論文発表		
	第14週	論文内容の検討	第29週	論文発表		
	第15週	論文内容の検討	第30週	まとめ		
指導方法履修上の注意	<p>ここでは「食」や「健康」などに関連する様々な分野から、演習生それぞれが興味に基づき研究をすすめていく。保育者としての視点からテーマをもち文献研究および観察研究をして、論文としてまとめていく。それぞれが自分の研究テーマに向かって積極的に取り組むことを期待する。先行論文や白書などを参考に情報を収集し、綿密な計画を立て、取り組んでほしい。</p>					
成績評価の方法	論文（70％）、発表（20％）、授業態度（10％）					
教科書	特になし					
参考文献	必要に応じて随時紹介する。					

授業科目	総合演習（卒業研究）		単位数	2	担当教員	加賀谷 崇文
講義のねらいと概要	<p>保育、幼児教育に関連する幅広い分野から学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。講義は、少人数によるゼミナール形式で行われる。また、論文提出後には発表会が行われる。このことを通じ、保育者として必要な専門的知識をさらに深める。</p> <p>研究テーマとしては、臨床心理学に関連する「母子関係」「保育者のメンタルケア」「子育て支援」などを中心とする。</p>					
授業計画	第1週	講義の方針と年間計画	第16週	論文の執筆		
	第2週	各学生によるテーマの選定	第17週	論文の執筆		
	第3週	各学生によるテーマの選定	第18週	論文の執筆		
	第4週	各学生によるテーマの選定	第19週	論文の執筆		
	第5週	文献の収集	第20週	論文の執筆		
	第6週	文献の収集	第21週	論文の執筆		
	第7週	文献の収集	第22週	論文の執筆		
	第8週	先行研究の発表	第23週	論文の執筆		
	第9週	先行研究の発表	第24週	論文の執筆		
	第10週	先行研究の発表	第25週	論文の執筆		
	第11週	先行研究の発表	第26週	論文の修正		
	第12週	先行研究の発表	第27週	論文の修正		
	第13週	論文執筆の説明	第28週	論文発表会		
	第14週	論文内容の検討	第29週	論文発表会		
	第15週	論文内容の検討	第30週	まとめ		
指導方法履修上の注意	自分の研究テーマを明確にし、積極的に取り組むことを期待する。					
成績評価の方法	論文（70％）、発表（20％）、授業態度（10％）					
教科書	特になし					
参考文献	特になし					

授業科目	総合演習（卒業研究）		単位数	2	担当教員	土屋 由
講義のねらいと概要	<p>保育、幼児教育に関連する幅広い分野から学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。講義は、少人数によるゼミナール形式で行われる。また、論文提出後には発表会が行われる。このことを通じ、保育者として必要な専門的知識をさらに深める。</p> <p>主なテーマとしては、「保育内容」「子どもの生活・遊びや文化に関すること」「育児」についてなどである。保育所・幼稚園・家庭をフィールドとする質的研究および文献研究を行い、論文としてまとめることを目的とする。</p>					
授業計画	第1週	講義の方針と年間計画	第16週	調査の実施		
	第2週	子ども関連施設の見学	第17週	調査の実施		
	第3週	子ども関連施設の見学	第18週	結果の整理		
	第4週	研究テーマの選定	第19週	結果の整理		
	第5週	研究テーマの選定	第20週	結果の整理		
	第6週	テーマについて必要な文献を集める	第21週	考察を進める		
	第7週	テーマについて必要な文献を集める	第22週	考察を進める		
	第8週	先行研究の検討	第23週	考察を進める		
	第9週	先行研究の検討	第24週	結論および今後の課題の検討		
	第10週	先行研究の検討	第25週	結論および今後の課題の検討		
	第11週	問題の所在を明らかにする	第26週	論文の修正		
	第12週	問題の所在を明らかにする	第27週	論文の修正		
	第13週	調査方法および分析の視点の検討	第28週	論文発表会		
	第14週	テーマ・問題の所在・調査方法の発表	第29週	論文発表会		
	第15週	テーマ・問題の所在・調査方法の発表	第30週	まとめ		
指導方法履修上の注意	研究テーマを明確にすること、必要な文献をしっかりと読みこなすことを期待する。					
成績評価の方法	論文（70％）#論文提出の締め切りは12/21、発表（20％）#提出後、指導教員から修正を求められた場合は、その作業も発表に含み評価を行う、授業態度（10％）					
教科書	特になし					
参考文献	『大学生のためのレポート・論文術』（小笠原喜康、講談社新書） 『論文の教室』（戸田山和久、NHKブックス）					

授業科目	総合演習（卒業研究）		単位数	2	担当教員	大輪公彦
講義のねらいと概要	保育、幼児教育に関連する幅広い分野から学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。講義は、少人数によるゼミナール形式で行われる。また、論文提出後には発表会が行われる。このことを通じ、保育者として必要な専門的知識をさらに深める。					
授業計画	第1週	オリエンテーション	第16週	中間報告		
	第2週	音楽領域研究の方法	第17週	論文の推敲		
	第3週	〃	第18週	〃		
	第4週	〃	第19週	〃		
	第5週	テーマの設定とグループ分け	第20週	最終報告		
	第6週	テーマの決定	第21週	〃		
	第7週	テーマに関する図書研究	第22週	〃		
	第8週	〃	第23週	〃		
	第9週	〃	第24週	卒業論文指導		
	第10週	資料検索と論文書式	第25週	〃		
	第11週	〃	第26週	〃		
	第12週	〃	第27週	〃		
	第13週	中間報告	第28週	〃		
	第14週	〃	第29週	卒業論文報告		
	第15週	〃	第30週	〃		
指導方法履修上の注意	自分の研究テーマを明確にし、積極的に取り組むことを期待する。					
成績評価の方法	論文（100％）*論文提出の締め切りは12月末日（決定後直ちに連絡）。*提出後、指導教員から修正を求められた場合は、その作業も発表に含み評価を行う。					
教科書	授業内で指示					
参考文献	授業内で指示					



授業科目	総合演習Ⅱ(卒業研究)		単位数	2	担当教員	星野 治
講義のねらいと概要	<p>保育、幼児教育に関連する幅広い分野から学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成します。講義は、少人数によるゼミナール形式で行われます。また、論文提出後には発表会が行われます。このことを通じ、保育者として必要な専門的知識をさらに深めます。</p> <p>本演習では、「防災」を念頭におき、「保育・幼児教育の専門家」としての将来の自分自身を想定しながら、災害サバイバルシミュレーションを行います。そのシミュレーションの結果をもとに、保育・幼児教育のありかたに関する各自の見解をレポート化し、卒業研究として整理します。</p>					
授業計画	第1週	前期ガイダンス (演習の目的、進めかたなど)	第16週	後期ガイダンス (研究テーマの選びかた、レポートの書きかた)	第17週	既存資料の閲覧(13) (特定の視点からみた複数資料の検索・選択)
	第2週	既存資料の閲覧(1) (資料の検索・選択)	第18週	既存資料の閲覧(14) (複数資料の総合評価)	第19週	既存資料の閲覧(15) (複数資料の総合評価の文章化)
	第3週	既存資料の閲覧(2) (資料の内容の読解)	第20週	既存資料の閲覧(16) (複数資料の総合評価の発表)	第21週	第17週～第20週のみまとめ
	第4週	既存資料の閲覧(3) (資料の内容に対する解釈考察)	第22週	卒業研究(1) (研究テーマの決定)	第23週	卒業研究(2) (研究方針の決定)
	第5週	既存資料の閲覧(4) (資料に関するレポートの作成)	第24週	卒業研究(3) (研究内容の文章化ほか)	第25週	卒業研究(4) (研究内容の中間発表)
	第6週	既存資料の閲覧(5) (資料に関するレポートの発表)	第26週	卒業研究(5) (研究内容の文章化ほか)	第27週	卒業研究(6) (レポートの完成および提出)
	第7週	既存資料の閲覧(6) (資料に関するレポートの発表)	第28週	卒業研究(7) (研究内容の発表)	第29週	卒業研究(8) (研究内容の最終修正)
	第8週	第2週～第7週のみまとめ	第30週	全体のまとめ		
	第9週	既存資料の閲覧(7) (類似テーマを扱った複数資料の検索・選択)				
	第10週	既存資料の閲覧(8) (複数資料の内容の読解)				
	第11週	既存資料の閲覧(9) (複数資料の内容に対する解釈考察)				
	第12週	既存資料の閲覧(10) (複数資料に関するレポートの作成)				
	第13週	既存資料の閲覧(11) (複数資料に関するレポートの発表)				
	第14週	既存資料の閲覧(12) (複数資料に関するレポートの発表)				
	第15週	第9週～第14週のみまとめ				
指導方法 履修上の 注意	<p>上記の授業計画は、学外実習の日程その他の都合により、適宜変更される場合があります。</p> <p>シミュレーションを主体とする卒業研究の成果物は、「論文」および「作品」の両方の側面をもっています。この授業では、後者の「作品」としての側面を重視します。</p> <p>現実には起きていない災害の状況を、具体的な事件(バーチャルリアリティ)として頭の中で想起するためには、各種災害に関する基礎知識(必要に応じて授業期間中に学習します)や豊かなイメージング能力に加えて、かなり強い精神力が必要となります。</p> <p>入手困難な資料類(他大学附属図書館が所蔵する学術論文、出版時期の古い一般向け雑誌、その他)が必要となった場合、早めに担当教員へ相談してください。</p>					
成績評価の 方法	<p>論文(70%)、発表(20%)、授業態度(10%)</p> <p>※提出後に担当教員から成果物の修正を求められた場合、その作業も発表に含み評価されます。</p>					
教科書	必要に応じて指定します。					
参考文献	必要に応じて随時紹介します。					

授業科目	総合演習（卒業研究）		単位数	2	担当教員	伊藤明芳
講義のねらいと概要	<p>保育、幼児教育に関連する幅広い分野から、学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。講義は、少人数によるゼミナール形式で行われる。また、論文提出後には発表会が行われる。このことを通じて保育者として必要な専門的知識をさらに深める。</p> <p>研究テーマ； 1. 発達心理学など、子どもや教育に関わる心理学分野 2. 「子育て支援」に関する分野 3. 「保育相談」、「カウンセリング」などの分野</p>					
授業計画	第1週	本ゼミの方針と年間計画	第16週	論文執筆		
	第2週	論文作成についての概説	第17週	論文執筆		
	第3週	各学生による研究テーマの選定	第18週	論文執筆		
	第4週	各学生による研究テーマの選定	第19週	論文執筆		
	第5週	各学生による研究テーマの選定	第20週	論文執筆		
	第6週	各学生による研究テーマの選定	第21週	論文執筆		
	第7週	文献・資料収集	第22週	論文執筆		
	第8週	文献・資料収集	第23週	論文執筆		
	第9週	文献・資料収集	第24週	論文の修正		
	第10週	卒論計画の発表	第25週	論文の修正		
	第11週	卒論計画の発表	第26週	論文の修正		
	第12週	卒論計画の発表	第27週	論文の修正		
	第13週	論文執筆の説明	第28週	論文発表会		
	第14週	論文内容の検討	第29週	論文発表会		
	第15週	論文内容の検討	第30週	まとめ		
指導方法履修上の注意	自分の研究テーマを明確にして、根気強く、楽しく卒業研究に取り組むことを期待する。					
成績評価の方法	論文（70%）#論文提出の締め切りは12月中旬(予定)、発表（20%）#提出後、指導教員から修正を求められた場合は、その作業も発表に含み評価を行う、授業態度（10%）					
教科書	特に指定しない					
参考文献	講義の際に随時紹介					

授業科目	総合演習（卒業研究）		単位数	2	担当教員	金子 真由子
講義のねらいと概要	<p>保育、幼児教育に関連する幅広い分野から、学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。講義は少人数によるゼミナール形式で行われる。また、論文提出後には発表会が行われる。このことを通じ、保育者として必要な専門的知識をさらに深める。</p> <p>研究テーマとしては、子どもと環境（他者、空間、情報など）との関係、もしくは保育者の専門性を中心とし、文献、視聴覚教材、調査、フィールドワークなどを通して論文をまとめる。</p>					
授業計画	第1週	授業の進め方	第16週	論文の執筆		
	第2週	文献、視聴覚教材による基礎研究	第17週	論文の執筆		
	第3週	文献、視聴覚教材による基礎研究	第18週	論文の執筆		
	第4週	研究テーマの設定	第19週	論文の執筆		
	第5週	研究テーマの設定	第20週	論文の執筆		
	第6週	研究方法の理解 - 文献・資料の収集 -	第21週	論文の執筆		
	第7週	研究方法の理解 - 文献・資料のまとめ方 -	第22週	論文の執筆		
	第8週	研究方法の理解 - 調査・研究の方法 -	第23週	論文の執筆		
	第9週	論文の構成	第24週	中間発表		
	第10週	論文の構成	第25週	論文の修正		
	第11週	中間発表	第26週	論文の修正		
	第12週	中間発表	第27週	論文の修正		
	第13週	論文の執筆	第28週	論文発表		
	第14週	論文の執筆	第29週	論文発表		
	第15週	論文の執筆	第30週	まとめ		
指導方法履修上の注意	自分の研究テーマを明確にし、積極的に取り組むことを期待する。					
成績評価の方法	論文（70％）、発表（20％）# 提出後、指導教員から修正を求められた場合は、その作業も発表に含み評価を行う、授業態度（10％）					
教科書	特になし。					
参考文献	必要に応じて随時紹介する。					

授業科目	総合演習（卒業研究）	単位数	2	担当教員	秋山展子
講義のねらいと概要	<p>保育、幼児教育に関連する幅広い分野から学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。講義は、少人数によるゼミナール形式で行われる。また、論文提出後には発表会が行われる。このことを通じ、保育者として必要な専門的知識をさらに深める。</p> <p>研究テーマとしては、「地域における健全育成」、「現代における子どもの居場所」等のキーワードを中心とする。</p>				
授業計画	第1週	授業の進め方	第16週	研究論文の執筆	
	第2週	文献、視聴覚教材による基礎研究	第17週	研究論文の執筆	
	第3週	文献、視聴覚教材による基礎研究	第18週	研究論文の執筆	
	第4週	テーマの設定	第19週	研究論文の執筆	
	第5週	テーマの設定	第20週	研究論文の執筆	
	第6週	文献、資料などの収集	第21週	研究論文の執筆	
	第7週	文献、資料などの収集	第22週	研究論文の執筆	
	第8週	文献、資料などの収集	第23週	研究論文の執筆	
	第9週	調査、研究の方法	第24週	中間発表	
	第10週	調査、研究の方法	第25週	論文の修正	
	第11週	論文の執筆について	第26週	論文の修正	
	第12週	中間発表	第27週	論文の修正	
	第13週	中間発表	第28週	論文発表	
	第14週	論文の検討	第29週	論文発表	
	第15週	論文の検討	第30週	まとめ	
指導方法履修上の注意	自分の研究テーマを明確にし、積極的に取り組むことを期待する。				
成績評価の方法	論文（70％）発表（20％）#提出後、指導教員から修正を求められた場合は、その作業も発表に含み評価を行う、授業態度（10％）				
教科書					
参考文献					

授業科目	地 域 活 動	単位数	2	担当教員	金子真由子 松田鉄蔵
講義のねらいと概要	<p>「地域活動」は、保育の専門家を目指して入学した1年次生が、本学科の理念の一つである「地域のニーズにあった支援をする」保育者を目指し、本学の所在地である所沢市を中心とする地域活動に参加することで、様々な人々と接し、保育者としての役割や地域の社会資源の重要性を理解していくことを目的とする。主に児童館、障害者関係施設、教育関係機関、行政等が実施する活動に参加していく。また、活動後には、省察（振り返り）を行う中で、子どもや障害児者、また彼らを取り巻く地域の社会資源への理解を深めるとともに、子どもや障害児者、保護者への接し方を身につけることをねらいとしている。</p>				
授業計画	<p>1. 地域活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4月に、学校が指定する「地域活動参加先一覧」を配布する。</li> <li>・ 地域活動の実施期間は主として、土・日・祝日と長期休暇中で、一人の参加回数は、施設等からの依頼数により異なるが、概ね10回を予定している。</li> <li>・ 活動の場は、主に児童館、障害者関係施設、教育関係機関、行政等が実施するイベントとなる。</li> <li>・ 活動内容は、直接的に人と関わる活動（お祭りで一緒に買い物をする、一緒に作品の製作や調理をする等）と、間接的に関わる活動（環境整備、バザーの販売担当）がある。</li> <li>・ 現地までの交通費・食事は、一部補助のある行事もあるが、基本的には自己負担とする。</li> <li>・ 事前準備として、自ら活動先の交通機関、地図、時間、持ち物、活動内容等の確認をしておくこと。</li> </ul> <p>2. 事前事後指導について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の子育て支援の必要性、様々な人々と関わりあうことの重要性について学ぶ</li> <li>・ 服装、マナーなどの確認をする</li> <li>・ 本学周辺地域にある多様な場（施設、学校）を知り、その種類、違い、実態、ニーズについて理解する</li> <li>・ 自分の言動の反省や相手に対する理解などを深めるために省察（振り返り）を行う</li> <li>・ 活動後にはレポートを提出すること。</li> </ul>				
指導方法 履修上の 注 意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本科目は卒業要件である。</li> <li>・ 活動は、土・日・祝日と長期休暇中に行う。</li> <li>・ 指定回数の活動への参加と、活動の振り返りのためのレポート提出が求められる。</li> <li>・ 学校が指定する行事参加は、学生個人への事故等の保証と、学生の行為による対物破損の保険に学校の方で一括加入するのでこれに対応するが、自らの活動については、この保険の対象外であるので、社会福祉協議会を窓口とする「保険」に自らが加入するものとする。</li> </ul>				
成績評価の 方 法	<p>課題（40％）、授業態度（20％）、レポート（40％）</p> <p>* 課題とは地域活動参加回数や態度</p>				
教 科 書	特になし。				
参 考 文 献	適宜紹介する。				

授業科目	地 域 活 動		単位数	2	担当教員	伊 藤 明 芳
講義のねらいと概要	<p>「地域活動」は「地域活動」での学びと実践を基礎にして第2年次に行う。「地域のニーズにあった支援をする」保育者を目指し、と共通のねらいである。地域の子育ての実態を理解する、地域の子育てのニーズを学ぶ、をより深く実習し、課題を発見し考察を行える力の養成を目的とする。</p> <p>具体的には、受講生自らが居住地域に活動場所を選定し、活動の依頼を行い、定まった場所(一か所)にて継続して活動を行うことを中心とする。そして、活動で得た記録、反省、気づき等をレポートに丁寧にまとめ、さらに、報告とディスカッションを通じて受講生同士で共有を図り、活動で得たものをより豊かにして全員の糧となるようにする。</p>					
授業計画	第1週	イントロダクション(導入)	第16週	事前指導 (基本マナーや課題の見直し等)		
	第2週	事前指導 (活動場所の選定等)	第17週	事前指導 (基本マナーや課題の見直し等)		
	第3週	事前指導 (活動場所の選定等)	第18週	地域活動 (受講生の居住地域にて)		
	第4週	事前指導 (マナーや課題の設定等)	第19週	地域活動 (受講生の居住地域にて)		
	第5週	事前指導 (マナーや課題の設定等)	第20週	地域活動 (受講生の居住地域にて)		
	第6週	地域活動 (受講生の居住地域にて)	第21週	地域活動 (受講生の居住地域にて)		
	第7週	地域活動 (受講生の居住地域にて)	第22週	地域活動 (受講生の居住地域にて)		
	第8週	地域活動 (受講生の居住地域にて)	第23週	事後指導		
	第9週	地域活動 (受講生の居住地域にて)	第24週	事後指導		
	第10週	地域活動 (受講生の居住地域にて)	第25週	事後指導 (振り返りとディスカッション等)		
	第11週	事後指導	第26週	事後指導 (振り返りとディスカッション等)		
	第12週	事後指導	第27週	事後指導 (振り返りとディスカッション等)		
	第13週	事後指導 (振り返りとディスカッション等)	第28週	事後指導 (一年生との合同検討会等)		
	第14週	事後指導 (振り返りとディスカッション等)	第29週	事後指導 (一年生との合同検討会等)		
	第15週	前期のまとめと後期の学びへの助言	第30週	一年間の総合的まとめと今後の学びへの助言		
指導方法履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本科目(実習)は卒業要件である。</li> <li>・活動場所は主に受講生それぞれの居住地域の施設、学校、行政等が実施する活動を受講生自ら選定し、依頼を行い、活動に参加する。</li> <li>・活動は、土日祝日と長期休暇中に行う。回数は一人概ね10回を予定し、できるだけ一か所の場所で継続して複数回の活動を行う。</li> </ul>					
成績評価の方法	<p>課題(40%)、授業態度(20%)、レポート・発表(40%)</p> <p>課題とは地域活動参加回数や態度である。</p>					
教科書	特に指定しない					
参考文献	講義の際に随時紹介する					

授業科目	保 育 原 理	単位数	2	担当教員	土 屋 由
講義のねらいと概要	<p>保育原理 での学びを踏まえ、保育施策の現状やさまざまな保育施設、保育計画の意義、さまざまな保育思想や保育実践を学び、保育者の役割や保育・子どもを取り巻く現状と課題について理解を深める。さらに、グループで保育者論について調べてみるなどの作業に取り組み、多くの保育思想に触れる機会としたい。</p>				
授業計画	第1週	オリエンテーション			
	第2週	保育施策の現状			
	第3週	さまざまな保育の場 在宅保育から集団施設保育			
	第4週	保育課程・教育課程・指導計画の意義			
	第5週	保育思想に学ぶ モンテッソーリ			
	第6週	保育思想に学ぶ フレーベル、シュタイナー			
	第7週	保育思想に学ぶ 倉橋惣三			
	第8週	保育実践に学ぶ			
	第9週	保育実践に学ぶ			
	第10週	グループワーク 「保育に関する書籍から、様々な人の保育者論を集め、共通点や著者固有の主張を学ぶ」			
	第11週	グループワーク			
	第12週	グループワーク			
	第13週	グループワーク			
	第14週	グループワーク 発表			
	第15週	まとめ、保育研究の視点			
指導方法 履修上の 注 意	<p>他の受講生の意見や考えを聞き、自分の考えと相対化することで、学びを深めてほしい。</p>				
成績評価の 方 法	<p>課題・提出物（70％）、発表（30％）</p>				
教 科 書	<p>『保育方法の探求』柴崎正行編著、建帛社</p>				
参 考 文 献	<p>参考文献は、授業において紹介する。</p>				

授業科目	保 育 の 心 理 学	単位数	1	担当教員	伊 藤 明 芳
講義のねらいと概要	<p>本講義では、講義「発達心理学」の内容を踏まえて、発達心理学と教育心理学の基礎的知識の拡充と現場で生きる実践的能力の応用を図ることを目的とする。</p> <p>保育方法の工夫への手立て、家庭や保護者との関わり、保育者自身の心の安定と成長等にもアプローチしたいと考えている。</p>				
授業計画	第1週	イントロダクション			
	第2週	発達を理解するための基礎 [発達理論の復習と応用]			
	第3週	発達を理解するための基礎 [理論の活用を考える]			
	第4週	知的側面の発達			
	第5週	情緒的発達			
	第6週	社会的発達			
	第7週	子どもの心の問題 [概要]			
	第8週	子どもの心の問題 [理解と対応]			
	第9週	発達障害 [発達障害の理解]			
	第10週	発達障害 [発達障害へのアプローチ]			
	第11週	子どもへの関わりと保育方法の工夫			
	第12週	家庭、保護者との連携			
	第13週	保育者自身の心の健康			
	第14週	まとめ			
	第15週	今後へのアドバイスと試験			
指導方法 履修上の 注 意	<p>講義を中心におこなう。実際の事例などをあげ、受講生にわかりやすい内容を心がけたい。</p> <p>その他、事例研究やビデオ視聴等で理解を深め、それを保育の実践に活かすことを考える。</p> <p>受講者には自ら学び考える意欲をもって授業に参加する態度が求められる。</p>				
成績評価の 方 法	筆記試験（60％）、レポート（40％）				
教 科 書	特に指定しない				
参 考 文 献	講義の際に随時紹介				



授業科目	子どもの保健Ⅱ	単位数	1	担当教員	駒松仁子
講義のねらいと概要	<p>保育における保健活動は子どもの健やかな成長に欠かすことのできない活動である。子どもの発達過程に応じた保健活動、環境が子どもの健康に及ぼす影響や地域保健活動等との連携、さらに、健康上の配慮を必要とする子どもへの対応や事故・救急時の対応について学ぶ。</p> <p>到達目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 保健活動の計画、実施、評価が理解できる。</li> <li>2) 生活習慣の形成と支援技術および心身の健康を促す保健活動の理解ができる。</li> <li>3) 体調不良や個別な配慮を必要とする子どもへの対応について理解できる。</li> <li>4) 応急処置や救急処置、救急時の対応について理解できる。</li> </ol>				
授業計画	第1週	保健活動の計画と評価			
	第2週	子どもの保健と環境（保育における養護と教育の一体性、保育環境）			
	第3週	子どもの生活習慣と心身の健康（1）（生活リズムの形成、睡眠）			
	第4週	子どもの生活習慣と心身の健康（2）（食事、排泄）			
	第5週	子どもの生活習慣と心身の健康（3）（清潔、衣服の着脱）			
	第6週	保育における健康観察と記録（観察の方法と記録、身体計測・評価、バイタルサインの測定）			
	第7週	体調不良の子どもへの対応（1）（咳、喘鳴、発疹、けいれん）			
	第8週	体調不良の子どもへの対応（2）（発熱、下痢、嘔吐、脱水症）			
	第9週	体調不良の子どもへの対応（3）（腹痛、便秘、頭痛、排尿痛）			
	第10週	個別な配慮必要とする子どもの理解（1）（喘息、アトピー性皮膚炎、糖尿病、腎疾患、心疾患などの子ども）			
	第11週	個別な配慮必要とする子どもの理解（2）（低出生体重児の保育、園における薬の取り扱い）			
	第12週	発達・行動が気になる子どもへの対応（登園拒否、言葉の問題、乳幼児のくせ、発達障害など）			
	第13週	子どもの心身の健康問題と地域保健活動（長時間保育、病児・病後児保育、虐待など）			
	第14週	安全管理および子どもに起こりやすい事故と応急手当（含熱中症）			
	第15週	保育の場における救急蘇生法 試験			
指導方法 履修上の 注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料を用いて講義を行う。</li> <li>・視聴覚機器（スライド・ビデオ・DVDなど）の使用により、学習内容を具体的に提示して、理解が深まるように指導する。</li> <li>・演習を通して、基礎的な知識と技術が習得できるように指導する。</li> </ul>				
成績評価の 方法	筆記試験（60%）、課題（20%）、授業態度（20%）				
教科書	指定なし。授業の都度、資料を配布する。				
参考文献	授業の都度、参考文献を提示する。				

授業科目	子どもの食と栄養		単位数	2	担当教員	橋本洋子
講義のねらいと概要	<p>私たちは「食べる」ことからだに必要な栄養を摂取し、また適切な食生活によって健康を維持している。乳・幼児期の食生活は心身の発育・発達に大きく影響し、幼児期に身についた食生活はその子どもの一生の食習慣を左右する大切なものである。</p> <p>生まれたばかりの乳児は「食べる」手段として母乳を「吸う」ことから始め、離乳期を経て「噛む」ことを覚える。ただ「食べる」だけではなく、美味しく味わう、よく噛む、といった食生活の大切さをはじめ、保育者として、子どもの心身の発達段階にふさわしい栄養と食生活への正しい知識と食育のあり方を学ぶことを目的とする。</p>					
授業計画	第1週	子どもの健康と食生活の意義 健康・栄養とは	第16週	児童福祉施設における食事と栄養		
	第2週	子どもを取り巻く食環境 子どもの心身の健康と食生活	第17週	配慮が必要な子どもの食と栄養 疾病・体調不良・食物アレルギーなど		
	第3週	子どもを取り巻く食環境 子どもの食生活の現状と課題、食品の安全性	第18週	配慮が必要な子どもの食と栄養 障がいのある子どもへの対応		
	第4週	からだと栄養 からだのはたらきと栄養の基礎知識	第19週	こどもを取り巻く食環境 子どもに必要な食環境を考える		
	第5週	からだと栄養 食べ物のゆくえ ～消化・吸収のいとなみ～	第20週	食育 食育の基本と内容、食育基本法		
	第6週	からだと栄養 食事摂取基準と献立作成・調理の基本	第21週	食育 食育の内容と計画・評価について		
	第7週	子どもの発育・発達と食生活 乳児期の栄養と排泄	第22週	食育 保育士にできる食育を考える 食育のための環境、保護者への支援等		
	第8週	子どもの発育・発達と食生活 哺乳動作の発達(ビデオ)	第23週	食育 食育計画を立てよう		
	第9週	子どもの発育・発達と食生活 乳汁栄養(母乳、人工栄養)	第24週	試験・まとめ		
	第10週	子どもの発育・発達と食生活 離乳の意義と進め方	第25週	食育演習 食育媒体とは、食育計画と媒体制作		
	第11週	子どもの発育・発達と食生活 摂食機能の発達	第26週	食育演習 媒体制作		
	第12週	子どもの発育・発達と食生活 幼児期の特徴と食生活	第27週	食育演習 媒体制作		
	第13週	子どもの発育・発達と食生活 学童期の特徴と食生活	第28週	食育媒体発表		
	第14週	子どもの発育・発達と食生活 食品の選び方、栄養価計算	第29週	食育媒体発表		
	第15週	試験・まとめ	第30週	まとめ		
指導方法履修上の注意	<p>テキストを中心にビデオ・配布資料等の教材を使用した講義が中心となるが、献立作成、食育媒体製作なども含む演習科目である。子どもだけでなく自分自身の食生活・健康も考え、また、保育士として求められている食育に積極的に取り組み、課題作成・発表を楽しみ、食指導のあり方を考えて欲しい。</p>					
成績評価の方法	筆記試験(70%)、課題・発表(20%)、授業態度(10%)					
教科書	『子どもの食と栄養-演習-』(岡崎光子編、同文書院) 必要に応じて資料を配布					
参考文献	必要に応じて随時紹介する。					

授業科目	子どものための食育実習	単位数	1	担当教員	橋本洋子
講義のねらいと概要	<p>生まれたばかりの乳児は母乳を「吸う」ことから始まり、離乳期を経て幼児期には「ひとり食べ」ができるようになり、この短期間に目覚ましい摂食機能の発達を遂げる。</p> <p>この食育実習では、1年次の「子どもの食と栄養」で学んだ知識をもとに、子どもの発達過程に応じた食事を、実際に調理し、子どもの立場で試食することで理解を深める。ただ「空腹を満たす食事」ではなく、子どもの咀嚼機能に合っているか、発達に応じた食事量や調理方法を学び、「おいしく」かつ「楽しい」食事を与えられるよう、自分なりの視点をもって取組んで欲しい。</p>				
授業計画	第1週	オリエンテーション：調理室の使い方、調理の基本			
	第2週	調乳および離乳食（準備期）			
	第3週	離乳食（初期・中期）			
	第4週	離乳食（後期）			
	第5週	離乳食（完了期）			
	第6週	幼児の食事（1～2才、3～5才）			
	第7週	幼児のおべんとう			
	第8週	幼児のおべんとう			
	第9週	幼児の間食			
	第10週	幼児の間食：食物アレルギーを考える			
	第11週	行事食			
	第12週	食育を考える			
	第13週	まとめ、レポート提出（第13週で終了）			
	第14週				
	第15週				
指導方法履修上の注意	<p>毎回2時限連続で行う。デモンストレーション・説明の後、4～5人のグループに分かれて実習する。必要に応じてビデオなどの教材も使用。毎実習後に各自でレポートを作成し、子どもの食事のあり方について考察する。レポートは最後にまとめて提出する。</p> <p>グループ毎の実習となり欠席は他の学生に迷惑をかけることになる。また、デモンストレーション中の私語は円滑な実習のために禁止する。エプロン、三角巾を着用すること。</p>				
成績評価の方法	<p>レポート・課題（70％） 授業態度（30％）</p> <p>授業態度には、実習にふさわしい服装をはじめとした取り組む姿勢を考慮する。</p>				
教科書	実習に必要な資料は毎回配布する。				
参考文献					

授業科目	社会的養護	単位数	2	担当教員	松田鉄蔵
講義のねらいと概要	<p>複雑化する現代社会では、「過程・家族での養育」と、「社会全体での養育」いう2極での視点、即ち過程と福祉施設での養護はますます連携が必要であり、施設職員としての基本的な姿勢と、子どもとの人間的なふれあいの大切さをより理解できるように、具体的な事例・映像を紹介しながら授業をおこなう。児童福祉施設（障害関係施設は、障害児施設から成人施設までを含む）の、法律上の背景、設立までの歴史的経緯、基本的な諸問題を通して、子どもの社会的養護とは何か、施設養護の具体的な種別、施設養護に共通する基本理念、施設種別毎の基本理念とは何か、施設と地域との関係等について学ぶ。</p>				
授業計画	第1週	児童福祉と養護 - 児童福祉の理念と児童養護			
	第2週	児童福祉と養護 - 家庭の機能と家庭養護			
	第3週	児童福祉と養護 - 家庭養育の思潮と児童の人格形成			
	第4週	家庭・地域の子育てと福祉施設	家族・家庭の変容		
	第5週	家庭・地域の子育てと福祉施設	地域社会の変容		
	第6週	家庭・地域の子育てと福祉施設	子育て問題の今日の特徴的		
	第7週	家庭・地域の子育てと福祉施設	最近の子育て支援策		
	第8週	家庭・地域の子育てと福祉施設	まちづくりと福祉施設の連携		
	第9週	施設養護の基本原則 - 一般的基本原則 1			
	第10週	施設養護の基本原則 - 一般的基本原則 2			
	第11週	施設養護の基本原則 - 方法的的基本原則 1			
	第12週	施設養護の基本原則 - 方法的的基本原則 2			
	第13週	福祉施設の歴史と変遷(先駆者の心にふれる)			
	第14週	障害者自立支援法から、これからの障害児・者施設像の概略の理解			
	第15週	まとめ			
指導方法履修上の注意	<p>授業の前半は、広い視野から社会的養護を考えるために、現在の家族・家庭の現状(2010の世論調査を可能な限り参考にして現状を考える)からの養護体制や、施設内の生活の理解のために映像を活用する。授業はパワーポイントを使用して行う。</p>				
成績評価の方法	筆記試験(80%)、授業態度(20%)				
教科書	授業でプリント配布				
参考文献	新保育士養成講座 第5巻 社会的養護 新・保育士養成講座編纂委員会				

授業科目	相 談 援 助	単位数	1	担当教員	松 田 鉄 蔵
講義のねらいと概要	<p>保育現場や福祉施設での本人、保護者からの相談事は多く、内容も多岐にわたってきている。指導は信頼の上に広がることを考えると、相談事に誠意をもってあたるためにも、援助の基本的な技法を理論的に習得して、次に実際の多くの事例への対応をグループで討議する中で、援助技術を習得していく。保育、福祉現場での利用者、保護者からの相談に応じられる基礎的理論と、対応技法を学びとって欲しい。</p>				
授業計画	第1週	保育現場の動向から。相談援助の意義について学ぶ			
	第2週	相談援助の機関の概要と対象者の理解			
	第3週	援助的コミュニケーション コミュニケーション技法を学ぶ			
	第4週	援助的コミュニケーション 面接の技法について			
	第5週	記録の取り方・活かし方 記録の意義と目的を学ぶ			
	第6週	記録の取り方・活かし方 記録における留意点、様式について			
	第7週	集団援助技術の基礎知識 グループの種類と援助行動について			
	第8週	地域援助技術の方法モデルについて			
	第9週	ケースマネジメントの実際 問題をとらえる視点について			
	第10週	ケースマネジメントの実際 援助者の役割について			
	第11週	保育所における援助 事例の概要			
	第12週	保育所における援助 援助経過			
	第13週	児童福祉施設における援助 事例の概要			
	第14週	児童福祉施設における援助 援助経過			
	第15週	まとめ			
指導方法 履修上の 注 意	<p>講義での理解の上に、2人や集団での援助技術の実際に取り組み（ロールプレイ）や結果のレポートに積極的に参加するように、試験と同様に授業中の態度、参加度を重視する。</p>				
成績評価の 方 法	試験（50％）、授業態度（40％）、討議への参加（10％）				
教 科 書	授業でプリント配布				
参 考 文 献	保育者のための相談援助（小林 育子、明光社）、相談援助（春見静子、光生館）				

授業科目	家庭支援論	単位数	2	担当教員	鯛谷和代
講義のねらいと概要	<p>急激な社会の変化のなかで、子育て家庭は育児に対する強度な不安やストレスを抱えてしまっている、そういった家庭を支援することは社会全体の課題でもある。</p> <p>保育者は家庭や地域社会を視野に入れ、子育て家庭や家族を支援するという大きな役割を担っていることになるので、ここでは保育の専門性を生かした、家庭支援とはどのようなことかを考えていく。</p>				
授業計画	第1週	家族とは何か？			
	第2週	現代社会と家族、家庭1			
	第3週	現代社会と家族、家庭2			
	第4週	現代家族、家庭を取り巻く社外的状況			
	第5週	多様な家庭に生きる子どもと家族			
	第6週	家庭支援の目的と対象			
	第7週	育児ストレスとワークライフバランス			
	第8週	子どもへの不適切なかかわりと家庭支援			
	第9週	特別な配慮を必要とする家庭支援			
	第10週	保育者に求められる役割と課題			
	第11週	子育て家庭を支援するための社会的ネットワーク			
	第12週	多様な子育て支援の場			
	第13週	保育所・幼稚園地域にかける家庭支援の取り組み1			
	第14週	保育所・幼稚園地域にかける過程支援の取り組み2			
	第15週	まとめ			
指導方法履修上の注意	B5(30枚程度)ノート1冊、時間内にノートは整理し、13週目に提出。				
成績評価の方法	筆記試験(50%)、授業態度(20%)、ノート提出(30%)				
教科書					
参考文献	『家庭支援論』(橋本祐子編著、光生館)				

授業科目	保 育 内 容 総 論	単位数	1	担当教員	福 田 武 比 古
講義のねらいと概要	<p>「保育所保育指針」は、昭和40年8月に策定・施行されたもので、保育所の保育内容や保育方法等についての基本的理念・留意事項等を示したガイドラインである。（「保育所保育指針」は平成20年3月に再改定され、厚生労働大臣告示となり、21年4月より施行）「幼稚園教育要領」は、昭和31年に策定、39年3月に文部大臣（当時）告示として改定・施行されている。（「幼稚園教育要領」も平成20年3月に再改定・告示され、21年4月より施行）</p> <p>本授業では、「保育所保育指針」と「幼稚園教育要領」を中心に、保育内容全般及び保育情勢の最新の動向等について考察し理解する。</p>				
授業計画	第1週	子育ての社会的支援			
	第2週	福祉と教育の理念（児童福祉施設としての保育所・教育施設としての幼稚園）			
	第3週	我が国の保育制度と保育の歴史			
	第4週	保育所・幼稚園・認定こども園の制度と保育内容			
	第5週	保育をめぐる最近の動向			
	第6週	保育施設に期待される機能（仕事と子育ての両立支援・地域の子育て支援）			
	第7週	望ましい保育者像（保育者のためのチェックリスト）			
	第8週	保育所保育指針と幼稚園教育要領の改定			
	第9週	保育の役割、保育の原理、保育の社会的責任			
	第10週	子どもの発達（乳幼児期の発達の特性、発達過程）			
	第11週	保育の内容（保育のねらい及び内容、保育の実施上の配慮事項）			
	第12週	保育の計画及び評価（保育の計画、保育の内容等の自己評価）			
	第13週	健康及び安全（子どもの健康支援、環境及び衛生管理並びに安全管理、食育の推進、健康及び安全の実施体制）			
	第14週	保護者に対する支援（保護者に対する支援の基本、地域における子育て支援）			
	第15週	職員の資質向上（職員の資質向上に関する基本的事項、施設長の責務、職員の研修等）			
指導方法 履修上の 注 意	<p>1. 「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」及び参考資料に基づき講義</p> <p>2. 必要に応じて、バズセッション等の演習</p>				
成績評価の 方 法	レポート（60％）、授業態度（40％）				
教 科 書	授業時に配布するプリント				
参 考 文 献	『保育所保育指針』、『幼稚園教育要領』				

授業科目	保育内容（健康）	単位数	1	担当教員	岸井慶子
講義のねらいと概要	<p>乳幼児がそれぞれの時期にふさわしい生活を展開し発達に必要な経験を積み重ね、生涯を通じて心身ともに健康で安全な生活を営む基盤作りをするために、保育者がどのように考えて環境を構成しかかわったらよいかを理解することをねらいとする。具体的には、</p> <p>乳幼児期の発育や発達の過程を概観し基礎的な知識をもつ</p> <p>園生活における指導の実際について学び、留意すべき内容を知る</p> <p>を授業のねらいとする。</p>				
授業計画	第1週	心と体の「健康」(健康の考え方、乳幼児期の健康と大人の健康)			
	第2週	保育内容と領域「健康」(領域に示されたねらいと内容、内容の取扱いなど)			
	第3週	心と体の発達と健康((体の発育と運動の発達)			
	第4週	基本的生活習慣の形成 (生活における習慣や態度の形成)			
	第5週	基本的生活習慣の形成 (生活習慣の形成の過程と援助の実際)			
	第6週	食と健康 (食生活の変化と「食育」、食育基本法、子どもの育ちと食)			
	第7週	食と健康 (園生活における食の実際、課題、具体的援助、食育プログラム)			
	第8週	安全な生活(発育発達と事故、事故と環境条件、安全管理と安全教育、避難・安全訓練等の計画)			
	第9週	いろいろな遊びの充実と援助 (いろいろな道具・遊具の使用と安全)			
	第10週	いろいろな遊びの充実と援助 (鬼遊び・ボール・なわ遊び)			
	第11週	いろいろな遊びの充実と援助 (イメージに誘われる体の動き)			
	第12週	いろいろな遊びの充実と援助 (運動会、親子活動)			
	第13週	いろいろな遊びの充実と援助 (水遊び・プール指導)			
	第14週	いろいろな遊びの充実と援助 (園外活動、散歩や宿泊保育)			
	第15週	授業のまとめ			
指導方法履修上の注意	<p>スライドやビデオを活用しながら、出来るだけ具体的な事例をもとに講義を進めます。</p> <p>学修した内容を自分なりにまとめ、レポートとしてまとめて提出してください。</p>				
成績評価の方法	課題発表(60%)、レポート(40%)				
教科書	『保育内容「健康」』(岸井慶子編、大学図書出版)				
参考文献	授業の中で必要に応じて知らせます。				



授業科目	保育内容（人間関係）	単位数	1	担当教員	鯛谷和代
講義のねらいと概要	人間はひとりで生きていくことはできない。生誕直後から自分以外の人間と関係をつくり生活をしながら多くのことを習得していく。保育内容「人間関係」は園生活で子どもが健全に人との関係を築いていくためには何が必要か、人とかかわる力の基礎はどのように培われていくのか、保育者はどのような援助を行っていけばよいのかなどを具体的な実践例を取り上げながら考えていく。				
授業計画	第1週	人間とは			
	第2週	人間関係とは			
	第3週	幼児教育に求められる「人間関係」 1. 生きる力とは			
	第4週	幼児教育に求められる「人間関係」 2. 人間関係の基礎作り			
	第5週	幼稚園教育要領・保育所保育指針「人間関係」のねらいと内容			
	第6週	幼稚園教育要領・保育所保育指針「人間関係」の内容の取り扱い			
	第7週	子どもの人間関係の発達過程 1. 愛着と信頼関係 2. 情緒の安定			
	第8週	子どもの人間関係の発達過程 3. 自我の発達 4. 道徳性と規範意識			
	第9週	事例、幼児の体験と内容（人間関係）とのつながり1			
	第10週	事例、幼児の体験と内容（人間関係）とのつながり2			
	第11週	遊びの発達と人間関係 ・遊びの重要性			
	第12週	遊びの発達と人間関係 ・遊びのなかで育まれる人間関係			
	第13週	保育者に求められるもの 「育ての心」と「共に育ち育てあう心」			
	第14週	保育者の求められる援助の視点			
	第15週	人間関係を結ぶ保育のあり方			
指導方法履修上の注意	B5(30枚程度)ノート1冊、時間内にノートは整理し、13週目に提出。				
成績評価の方法	筆記試験（50%）、授業態度（20%）ノート（30%）				
教科書	『幼稚園教育要領解説、保育所保育指針』				
参考文献					

授業科目	保育内容（環境）	単位数	1	担当教員	鯛谷和代
講義のねらいと概要	日本の四季、伝統的な行事、身近な暮らしの中で周囲に興味関心を持ち、心を揺さぶる授業を通して、身近な暮らしの中から、生活を広げ深めていく保育が出来るように、日常生活のなかで「環境」の持つ魅力について感心を持つ習慣をつけ、豊かな保育環境を準備することができるように学んでいく。				
授業計画	第1週	保育内容（環境）で学ぶこと			
	第2週	保育所保育指針と幼稚園教育要領に見る「環境」(1)			
	第3週	保育所保育指針と幼稚園教育要領に見る「環境」(2)			
	第4週	身近な行事と暮らし(春)			
	第5週	身近な行事と暮らし(春から夏)			
	第6週	身近な行事と暮らし(夏から秋)			
	第7週	身近な行事と暮らし(秋)			
	第8週	身近な行事と暮らし(秋から冬)			
	第9週	身近な行事と暮らし(冬)			
	第10週	身近な暮らし 暦と節気			
	第11週	身近な自然と子ども1			
	第12週	身近なもの子ども2			
	第13週	身近な数量と図形			
	第14週	身近な文字と標識			
	第15週	まとめ 総合課題など			
指導方法 履修上の 注意	B5(30枚程度)ノート1冊、時間内にノートは整理し、13週目に提出。				
成績評価の 方法	筆記試験(50%)、レポート(30%)、授業態度(20%)				
教科書	『幼稚園教育要領・保育所保育指針 原本 平成20年告示』(チャイルド本社) 『子どもの育ちを支える「子どもと環境」』(浅見 均 編著、大学図書出版)				
参考文献					

授業科目	保育内容（言葉）	単位数	1	担当教員	岸井慶子
講義のねらいと概要	<p>言葉は子どもの人間関係を作り出すだけでなく、子どもの思考や自己形成にもかかわるものであり、保育の場や保育者が果たす役割は極めて大きい。このことを基本として理解しつつ、次のような内容を授業のねらいとする。</p> <p>子どもの言葉の獲得や発達に関する基礎的な知識をもつ 絵本などの文化財への理解を深め、扱う技術を身に付ける、 子どもの言葉を育てる際に、保育者が留意しなければならないことを理解する</p>				
授業計画	第1週	保育の基本と領域「言葉」(遊びを中心とした環境を通して行う保育の基本や、領域の考え方)			
	第2週	言葉の発達（言葉の発達とは何か、新生児期からのコミュニケーションと言葉の発達）			
	第3週	言葉の発達（1～2歳児頃言葉の発達）			
	第4週	言葉の発達（3～5歳児頃言葉の発達）			
	第5週	保育者の役割と援助（信頼関係を基盤として言葉を「やりとり」する保育者のかかわり）			
	第6週	保育者の役割と援助（聞き手としての保育者、伝え手としての保育者）			
	第7週	保育環境と言葉（文字との出会い）			
	第8週	保育環境と言葉（絵本、素話との出会い）			
	第9週	保育環境と言葉（歌、詩、言葉遊びとの出会い）			
	第10週	園生活の中の言葉（挨拶、唱え言葉などと園文化）			
	第11週	遊びの中の言葉（ごっこ遊びなどでイメージを表現する言葉）			
	第12週	遊びの中の言葉（説明する、考える、質問する言葉）			
	第13週	保育者の役割と援助（言葉にこめられた思いを理解する）			
	第14週	保育者の役割と援助（素話、絵本、ペープサートなど）			
	第15週	保育・教育の現代的課題と領域「言葉」			
指導方法履修上の注意	<p>絵本にできるだけ接し、読むことを求めます。数多くの絵本に触れていくうちに好きな絵本作家が見つかると思います。そこで、本授業では絵本や紙芝居の「整理帳」の提出を課題とします。</p> <p>子どもが言葉を発している様子を観察し書きとめたレポートを作成することを求めます。</p>				
成績評価の方法	レポート（30％）、課題（40％）、実技発表（30％）				
教科書	『保育内容 言葉』（秋田喜代美・野口隆子編著、光生館）				
参考文献	DVD『映像で見る0.1.2歳児のふれあいうた、あそびうた』（汐見稔幸監修、エイデル研究所） 『おはなしのろうそく』（東京子ども図書館）				

授業科目	保育内容（音楽表現）	単位数	1	担当教員	大輪公彦
講義のねらいと概要	主にソルフェージュ（音感訓練）をベースに、教師として身につけていなければならないメチエ（技術）、知識、また指導理念の基礎を学びます。				
授業計画	第1週	記譜法			
	第2週	階名唱法			
	第3週	聴覚訓練（歌唱）			
	第4週	”（ディクテーション）			
	第5週	”（リズム）			
	第6週	合奏・指揮法・各種楽器の指導法			
	第7週	音楽の形式・構造理解（楽曲形式）			
	第8週	”（各種音階）			
	第9週	創作（リズム）			
	第10週	”（旋律）			
	第11週	”（編曲）			
	第12週	”（楽曲創作）			
	第13週	”（伴奏）			
	第14週	”（即興）			
	第15週	まとめ（創作発表）			
指導方法履修上の注意	毎回必ず五線ノートを用意のこと。				
成績評価の方法	筆記試験（40%）、レポート（30%）、授業態度（30%）				
教科書	『「幼児の音楽教育」-音楽的表現の指導-』（音楽教育研究協会）				
参考文献	『改訂・楽器奏法の基礎指導』（大山美和子編、音楽教育研究会）				

授業科目	保育内容（造形表現）	単位数	1	担当教員	市瀬恭子	
講義のねらいと概要	<p>幼児の表現としての造形は、生活や遊びの中に多くのきっかけがある。それらは見たり、聞いたりして心を動かす感動となり、生きる喜びを生みだす原動力となる。</p> <p>その原動力を支えるのは、保育者の的確な幼児理解と援助である。幼児の豊かな表現は、保育者自らの豊かな感性から生まれる。</p> <p>幼児の遊びをイメージしながら、創りだしていく喜びや、楽しさを保育者自らが感じ、五感を働かせて創造性を豊かにすることを目標とする。</p>					
授業計画	第1週	オリエンテーション				
	第2週	「幼児の豊かな表現に向けて」	講義			
	第3週	材料を生かした遊びと工夫	描く			
	第4週	材料を生かした遊びと工夫	貼る			
	第5週	材料を生かした遊びと工夫	写す			
	第6週	それぞれの技法を組み合わせた制作				
	第7週	立体造形	紙工作			
	第8週	立体造形	身近な材料から	1		
	第9週	立体造形	身近な材料から	2		
	第10週	身近な自然とのかかわりを通して	自然物の工作	1		
	第11週	身近な自然とのかかわりを通して	自然物の工作	2		
	第12週	身近な自然とのかかわりを通して	コラージュ			
	第13週	身近な自然とのかかわりを通して	材料を組み合わせる			
	第14週	ワークショップ実践例				
	第15週	ワークショップ実践例				
指導方法 履修上の 注意	<p>制作を中心に進めていく</p> <p>自分の課題に応じて、使用する材料、用具を準備する。</p> <p>制作に要する材料費は本人負担とする。（300円程度）</p> <p>授業態度と作品に取り組む姿勢を重視する。</p>					
成績評価の 方法	レポート（30％）、作品（30％）、発表（10％）、授業態度（30％）					
教科書	『楽しい造形表現』（子ども造形表現研究会、圭文社）					
参考文献	『幼稚園教育要領 保育指針』（チャイルド社）					

授業科目	音楽（ピアノ）		単位数	2	担当教員	大輪公彦 他
講義のねらいと概要	この授業では、幼児教育または保育の現場で必要となる基本的なピアノの演奏技術と表現力を習得します。					
授業計画	第1週	オリエンテーション	第16週	曲目番号 15～17		
	第2週	曲目番号 1	第17週	" 18～20（童謡テキスト併用）		
	第3週	" 2	第18週	" 21～23		
	第4週	" 3	第19週	" 24～26		
	第5週	" 4	第20週	" 27～29		
	第6週	" 5	第21週	" 30～32		
	第7週	" 6	第22週	" 33～35		
	第8週	" 7	第23週	" 36～38		
	第9週	" 8	第24週	" 39～41		
	第10週	" 9	第25週	" 42～44		
	第11週	" 10	第26週	" 45～48		
	第12週	" 11	第27週	追加曲 1		
	第13週	" 12	第28週	追加曲 2, 3		
	第14週	" 13	第29週	追加曲 4, 5		
	第15週	" 14	第30週	テスト		
指導方法 履修上の 注意	個人レッスンが原則である。与えられた課題を次のレッスンまでに十分練習しておくこと。学生の進度に応じて後期は童謡曲集を併用する。1年間で終了不可な学生は2年次に残りを続けて履修する。					
成績評価の 方法	学年末実技試験（50％）、日常レッスンにおける取り組み（50％）					
教科書	『幼稚園教諭・保育士を目指す人のための新しいピアノ教則本』（田口・高崎・大輪編、カワイ出版）、『実用こどものうた』（田口・高崎編、カワイ出版）					
参考文献	授業内で指示					

授業科目	音楽（ピアノ）		単位数	2	担当教員	大輪公彦 他
講義のねらいと概要	音楽（ピアノ）で習得したピアノの基本奏法の上に、更に高度な演奏技術と応用力を身につけます。授業では、童謡をはじめ保育の現場で役に立つレパートリーを学びます。また、コードネームの学習を通して歌や合奏のピアノ伴奏が余裕を持ってできるよう、『実用こどものうた』をベースに授業を進めていきます。					
授業計画	第1週	オリエンテーション	第16週	『実用こどものうた』 p 42～71		
	第2週	『実用こどものうた』 p 8～39	第17週	〃		
	第3週	〃	第18週	〃		
	第4週	〃	第19週	〃		
	第5週	〃	第20週	〃		
	第6週	〃	第21週	〃		
	第7週	〃	第22週	〃		
	第8週	〃	第23週	〃		
	第9週	〃	第24週	〃		
	第10週	〃	第25週	〃		
	第11週	〃	第26週	〃		
	第12週	〃	第27週	〃		
	第13週	〃	第28週	〃		
	第14週	〃	第29週	〃		
	第15週	テスト	第30週	テスト		
指導方法履修上の注意	電子キーボードでの演習が中心となるため、毎日の練習の積み重ねが上達のポイントとなります。コードネーム等に関する参考文献は、その場に応じてサブテキストとしてコピーを配布します。					
成績評価の方法	学期末と学年末の実技試験（50％）、日常の授業における演奏（30％） 進捗及び学習曲数（20％）					
教科書	『実用こどものうた』（田口・高崎編、カワイ出版）					
参考文献	授業内で指示					

授業科目	図 画 工 作		単位数	2	担当教員	稲 葉 恭 子
講義のねらいと概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども達の造形活動を、楽しく生き生きと意欲的に展開させるために必要な図画工作の知識や技術の基礎技能を学びます。</li> <li>・子ども達の心や身体の発達にあわせた絵画・工作遊びを通し、子ども達の豊かな感性を育む道筋を学びます。</li> <li>・制作活動では結果にこだわらずどのような活動にも主体的に取り組み、制作過程を大切にしながら自分らしい表現作品を作り上げる積極的な取り組み方を学びます。</li> <li>・表現活動を楽しみ、豊かな感性の保育者として成長することをめざします。 (授業の内容については、制作進度状況により変更する場合があります。)</li> </ul>					
授業計画	第1週	授業の輪郭 取り組み方・テキストの使用法	第16週	手作りおもちゃ	バックボール制作	
	第2週	絵画の用具と描画材について	第17週	手作りおもちゃ	日用品で制作	
	第3週	描画のための基礎能力 点を描く	第18週	手作りおもちゃ	リサイクル品で制作	
	第4週	描画のための基礎能力 線を描く	第19週	手作りおもちゃ	オリジナルに挑戦	
	第5週	描画のための基礎能力 形をとらえる	第20週	ポップアートカード	仕組みを理解する	
	第6週	描画のための基礎能力 色をつける	第21週	ポップアートカード	デザイン	
	第7週	描画のための基礎能力 観察して描く	第22週	ポップアートカード	制作	
	第8週	描画のための基礎能力 観察して描く	第23週	ポップアートカード	制作	
	第9週	音のスケッチ	第24週	紙アート	紙袋で立体を作る	
	第10週	染める・マーブリング	第25週	紙アート	紙袋で立体を作る	
	第11週	切る・切り紙	第26週	スタンピング	スチロール版スタンプ作成	
	第12週	粘土 粘土のバリエーション	第27週	スタンピング	作品制作	
	第13週	粘土 基礎を作る	第28週	墨で表現	日本の伝統芸術にふれる	
	第14週	粘土 造形する	第29週	実践に向けて図画工作指導案を作成し発表		
	第15週	粘土 着色 仕上げ	第30週	まとめ		
指導方法 履修上の 注 意	<p>実技演習なので、指定された材料や道具類は各自責任をもって授業開始前に準備する。制作進度には個人差が出てくるが、最後まで根気よく完成を目指して制作する。提出物については、提出期日を守る。遅刻や欠席の無いよう、体調管理をする。制作に関する用具や材料費は、個人負担(年間5,000円前後)。</p>					
成績評価の 方 法	<p>フィードバックレポート(20%)、 作品(60%)、 授業態度(20%)</p>					
教 科 書	『楽しい造形表現』(子どもの造形表現研究会 圭文社)					
参 考 文 献	必要に応じて案内します。					



授業科目	体育（幼児体育を含む）		単位数	2	担当教員	北 洞 誠 一
講義のねらいと概要	乳幼児期の良好な発育発達にとって必要な運動を理解し、そのための運動遊びを体験し学習する。将来、保育の現場に出た時に、適切な運動遊びの実践を指導出来るようにする。					
授業計画	第1週	講義：乳幼児期に必要な運動遊び ビデオ・写真鑑賞学習	第16週	講義：後期の実技の予習 ビデオ・写真鑑賞		
	第2週	からだ遊び：いろいろな体操	第17週	ボール遊び：一人操作		
	第3週	からだ遊び：四足移動	第18週	ボール遊び：ゲーム		
	第4週	マット遊び：回転遊び	第19週	表現遊び		
	第5週	マット遊び：回転遊び	第20週	表現遊び		
	第6週	跳び箱遊び：いろいろな通過法	第21週	鬼遊び		
	第7週	跳び箱遊び：腕立て開脚跳び越し	第22週	鬼遊び		
	第8週	鉄棒遊び：いろいろなぶら下がり	第23週	縄遊び：短縄		
	第9週	鉄棒遊び：いろいろな回転	第24週	縄遊び：長縄		
	第10週	巧技台遊び：棒の上を渡る	第25週	マット遊び：運搬遊び		
	第11週	巧技台遊び：棒の間を渡る	第26週	マット遊び：格闘遊び		
	第12週	巧技台遊び：棒の下を渡る	第27週	からだ遊び：体操・四足移動		
	第13週	講義：実技のまとめ	第28週	からだ遊び：その他の動き		
	第14週	講義：前期のまとめとビデオ・写真鑑賞学習	第29週	講義：後期のまとめとビデオ鑑賞		
	第15週	講義：テスト・ノート提出	第30週	講義：テスト・ノート提出		
指導方法 履修上の 注 意	運動の出来る服装を用意し、出来るだけ薄着にする事。基本的に素足で行いますので、ストッキングは脱いで来る事。髪の毛は運動の邪魔にならないように、長い髪の方は後ろか横で束ねる事。授業の内容を、現場の運動遊びの資料として使えるように、毎回の内容をノートにまとめる事。前期と後期の終盤にノートを提出して頂きます。					
成績評価の 方 法	筆記試験（25%）、レポート（25%）、実技（25%）、授業態度（25%）					
教 科 書	『子どもの運動・表現遊び』（宮下恭子編、大学図書出版）					
参 考 文 献						

授業科目	乳 児 保 育		単位数	2	担当教員	伊 能 恵 子
講義のねらいと概要	<p>乳幼児期における、発達の姿を心・体・生活等といった細かい項目に分けて明確に捉えることを目標とする。 また、これらを受けて保育現場における援助方法の概要を具体的に提供することにより、乳児期の大切さと重要性の実感を高めることをねらいとする。</p> <p>さらに、保育所保育指針を土台とした「養護」と「教育」についての考察などを通して、保育士としての資質向上が求められている現在、保育士資質とは何か等、学生個々人が目標に照らし合わせて、次の学びの一步として活用できるよう、理論と実践とをむすびつけた講義の展開に焦点をあてたい。</p>					
授業計画	第1週	生涯発達という捉え方	第16週	発達の流れ		
	第2週	乳幼児期（1）	第17週	人とかかわりの発達と保育援助		
	第3週	乳幼児期（2）	第18週	保育所保育指針と保育援助		
	第4週	乳幼児期（3）	第19週	「養護」とは（1）		
	第5週	乳幼児期（4）	第20週	「養護」とは（2）		
	第6週	発達の姿	第21週	「教育」とは		
	第7週	すいみんの発達と保育援助	第22週	乳児期の母子相互作用		
	第8週	視覚の発達と保育援助	第23週	乳児期の重要性（1）		
	第9週	聴覚の発達と保育援助	第24週	乳児期の重要性（2）		
	第10週	知覚の発達と保育援助	第25週	乳児期の保育援助（1）		
	第11週	情緒の発達と保育援助	第26週	乳児期の保育援助（2）		
	第12週	言葉の発達と保育援助（1）	第27週	乳児期の親子だて		
	第13週	言葉の発達と保育援助（2）	第28週	保育者としての資質（1）		
	第14週	認知の発達と保育援助	第29週	保育者としての資質（2）		
	第15週	まとめ（1）	第30週	まとめ（2）		
指導方法履修上の注意	<p>毎回の授業をふまえた課題提出を課することにより、必ず理解した後に次の授業へ臨んでいただくよう添削指導を行う。その際課題を点数化していき評価へつなげるので、必然的に出席を要する。なお、遅刻・私語については、当然のマナーとして厳禁であると心得ている。</p>					
成績評価の方法	筆記試験（50％）、課題（50％）					
教科書						
参考文献	<p>『新・保育士養成講座 発達心理学』（保育士養成講座編集委員会/編、全国社会福祉協議会）、『実習育児学』（吉岡毅・千羽喜代子・長谷川浩道、日本小児医事出版社）、『保育と保健』（日本保育保健協議会）、『幼児教育と脳』（澤口俊之、文芸春秋）保育所保育指針、『ナラティブとしての保育学』（磯部裕子・山内紀幸、明文書林）その他</p>					

授業科目	障 害 児 保 育		単位数	2	担当教員	松 田 鉄 蔵
講義のねらいと概要	<p>障害の有無にかかわらず、どの子ども地域の中で生活し、発達する権利を有していて、社会はそれを実現していかなければならない。WHOの障害の概念の理解の上に、日本での障害児・者の福祉・教育制度・施策の全体像を通して、障害児保育の取り組み経過、早期発見・早期療育・療育技法等を通して、発達障害の全体像を理解し、保育現場での具体的な対応、手順を学ぶ。障害者自立支援法や障害者権利条約から、また今後の福祉の方向についても考える。</p>					
授業計画	第1週	WHO ICF2001年版を通して障害の概念を理解	第16週	インクルージョンの実例を通して概念の理解		
	第2週	日本での障害の概念、手帳制度の理解	第17週	発達障害の概要について		
	第3週	障害種別に応じた福祉施設の概要の理解	第18週	発達障害 - AD / HDの概要と対応について		
	第4週	学校教育での障害児への受入経過の理解	第19週	発達障害 - LDの概要と対応について		
	第5週	特別支援学校・特別支援学級の概略	第20週	発達障害 - アスペルガー症候群の概要と対応について		
	第6週	日本における障害児への保育の歴史	第21週	発達障害への対応事例から学ぶ		
	第7週	障害児の保育への対応の法的概要の理解	第22週	自閉症児への対応 - 自閉症の理解		
	第8週	障害児の保育への対応の実際的概要の理解	第23週	自閉症児への対応 - 療育体制と療育技法		
	第9週	乳幼児健診での早期発見、早期対応を理解する - 大津方式	第24週	自閉症児への対応 - 実際の対応に関して		
	第10週	乳幼児健診での早期発見、早期対応を理解する - 北九州方式	第25週	障害児の保育所での対応 - 事例を通して学ぶ1		
	第11週	障害児幼児通園施設(含デイサービス)の概要	第26週	障害児の保育所での対応 - 事例を通して学ぶ2		
	第12週	「たったひとつのたからもの」から家族の心にふれる。	第27週	障害児の保育所での対応 - 事例を通して学ぶ3		
	第13週	ダウン症候群の概要と、特性を	第28週	障害者総合自立支援法の概要を理解する		
	第14週	ダウン症候群 - ボーテージから、早期療育を考える	第29週	新法・障害者権利条約から障害児保育を考える		
	第15週	ノーマライゼーションの概念を理解	第30週	まとめ		
指導方法履修上の注意	<p>授業はパワーポイントを使用して行う。障害児・者、福祉施設、療育技法の理解のため映像を多く活用する。特に発達障害、自閉症の状態像と対応については、幼児から青年期までの現状と対応方法について、映像と、説明を一体化して具体的に、できるだけ明日から活用できる内容に絞る。</p>					
成績評価の方法	筆記試験(70%)、レポート(10%)、授業態度(20%)					
教科書	授業でプリント配布					
参考文献						

授業科目	社会的養護内容	単位数	1	担当教員	佐藤 千代子
講義のねらいと概要	<p>子どもは家庭で育てられるのが一般的であるが、家庭養護だけでは子どもの養育が困難な状況となっており、国や社会で子どもたちを養育・保護する「社会的養護」が重要となってきた。社会的養護の役割は、子どもの安らかで健全な生活を確保し、心身の成長や発達を促すこと、また、虐待など不適切な養育により心身に傷を抱えた子どものケアを行い、その子どもの社会的な自立までの支援であるといわれている。授業ではさまざまな子どもの事例を通して、子どもの理解を深め、社会的養護の果たしている役割を理解する。また、子どもの守られなければならない権利についても学び、子どもの最善の利益についても深く考える。</p>				
授業計画	第1週	ガイダンス 社会的養護の場としての児童養護の体系と児童福祉施設の概要			
	第2週	社会的養護の決定の仕組みー児童相談所の役割			
	第3週	施設養護の実際ー乳児院・母子生活支援施設ー			
	第4週	施設養護の実際ー児童養護施設ー			
	第5週	施設養護の実際ー児童自立支援施設ー			
	第6週	施設養護の実際ー情緒障害児短期治療施設ー			
	第7週	施設養護の実際ー重症心身障害児施設ー			
	第8週	施設養護の実際ー知的障害児施設ー			
	第9週	里親制度の特性及び実際			
	第10週	心の傷を癒し、心を育むための援助			
	第11週	虐待された子どもへの支援			
	第12週	虐待した家族への支援			
	第13週	児童の権利擁護ー子どもの最善の利益ー			
	第14週	子どもの権利を守る仕組み・支援者としての資質と倫理			
	第15週	試験・まとめ			
指導方法 履修上の 注意	<p>配布したプリント、資料・DVD等を使ってわかり易い講義を行う。内容により、グループ討議を行う。わからない点があれば、どしどし質問すること。 プリントは、ファイルにきちんと保管すること。 複数回、復習を兼ねたミニレポートの提出をもとめる。 授業中の私語、飲食、携帯電話の使用は厳禁。</p>				
成績評価の 方法	筆記試験（50%）、レポート（20%）、授業態度（30%）				
教科書	特に指定しない。				
参考文献	必要に応じて紹介する				

授業科目	保 育 所 実 習	単位数	2	担当教員	土 屋 由
講義のねらいと概要	<p>保育所実習 は、保育所実習のうち前期実習にあたり、実習の段階としては「見学・観察実習」となる。(後期実習は、保育所実習 として実施)</p> <p>実習の特徴は、保育が具体的に展開される場に身をおき、子どもたちや保育者と生活を共にし、自らの直接体験を通して学ぶところにある。実習を通して実習生自身が、保育についての講義や演習での学びを実践の場において統合し、保育者としての倫理観・子ども観を身につけることをねらいとする。</p>				
授業計画	<p>前期保育所実習は、原則として第2学年の2月に実施する(2週間)。</p> <p>見学・観察実習の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所の役割と機能 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 保育所の生活と一日の流れ</li> <li>(2) 保育所保育指針の理解と保育の展開</li> </ol> </li> <li>2. 子ども理解 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 子どもの観察とその記録による理解</li> <li>(2) 子どもの発達過程の理解</li> <li>(3) 子どもへの援助やかかわり</li> </ol> </li> <li>3. 保育内容・保育環境 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 保育の計画に基づく保育内容</li> <li>(2) 子どもの発達過程に応じた保育内容</li> <li>(3) 子どもの生活や遊びと保育環境</li> <li>(4) 子どもの健康と安全</li> </ol> </li> <li>4. 保育の計画、観察、記録 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 保育課程と指導計画の理解と活用</li> <li>(2) 記録に基づく省察・自己評価</li> </ol> </li> <li>5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 保育士の業務内容</li> <li>(2) 職員間の役割分担や連携</li> <li>(3) 保育士の役割と職業倫理</li> </ol> </li> </ol>				
指導方法 履修上の 注 意	<p>実習に参加する学生は、心身ともに健康であり、学内における教科の履修状況・出席・学習態度が良好でなければならないことはいうまでもないが、常に自分自身を見つめ直し、保育者になるための努力を続けることが求められる。</p>				
成績評価の 方 法	<p>実習施設による実習評価(50%)、実習日誌(30%)、実習課題(20%)</p>				
教 科 書	<p>『実習の手引き』(実習委員会)、『教育・保育・施設実習の手引き』(松本峰雄編著、建帛社)、『保育所保育指針』</p>				
参 考 文 献	<p>保育所実習研究の授業で使用する教科書及び参考文献を参照すること。</p>				

授業科目	施設実習	単位数	2	担当教員	秋山展子
講義のねらいと概要	<p>施設実習は、保育所以外の児童福祉施設と知的障がい者施設で行われる実習を指します。本学の主な実習施設として、乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設、知的障がい者支援施設などがあります。原則として、11日間施設に宿泊し利用者と生活をともにしながら実習を行います。</p>				
授業計画	<p>実習施設の一日の生活の流れを知る。</p> <p>保育者の一日の職務を知る。</p> <p>利用者の一日の過ごし方や活動内容を学ぶ。</p> <p>自由時間の過ごし方やレクリエーションについて学ぶ。</p> <p>衣食住に関する支援の実際や配慮事項について学ぶ。</p> <p>日中活動における支援のあり方について学ぶ。</p> <p>福祉施設における保育者の役割について学ぶ。</p> <p>福祉施設内のチームワークのあり方について学ぶ。</p> <p>施設の機能について多様な視点から学ぶ。</p> <p>福祉事務所、児童相談所など他機関との連携について学ぶ。</p> <p>利用者や施設について総合的に学び、実習を振り返る。 <span style="float: right;">以上11日間の学外実習をする。</span></p>				
指導方法 履修上の 注意	<p>実習の前後において「福祉施設実習研究」を履修し、実習施設の概要、実習の目的や内容、実習に必要な基本事項を学んだ上で実習に臨むこと。また、実習施設における指導を謙虚に受け止め、実習生にふさわしい言動がとれるようにしておくこと。実習に必要な書類の提出遅延、「福祉施設実習研究」の授業に無断欠席をする、授業時や実習中の態度などによっては本学の「実習派遣規制」によって実習の中止や停止の措置をとるので注意すること。</p>				
成績評価の方法	<p>実習園評価（50%）実習記録（30%）実習課題（20%）</p>				
教科書					
参考文献	<p>必要に応じて紹介する。</p>				

授業科目	保 育 所 実 習	単位数	2	担当教員	土 屋 由
講義のねらいと概要	<p>保育所実習 は、保育所実習 での学びを踏まえ、保育者として必要な資質・能力・技術を習得すること、さらには子どもの保育及び保護者・家庭への支援について総合的に学ぶことをねらいとする。実習の段階としては「参加・責任実習」であり、子どもの生活や発達、保育者の役割へのより一層の理解を深めること、指導計画の作成・実践・省察・評価から保育の過程を理解することなどが求められる。</p>				
授業計画	<p>後期保育所実習は、原則として第3学年の9月（2週間）に実施する。</p> <p>参加・責任実習の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所の役割や機能の具体的展開 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 養護と教育が一体となって行われる保育</li> <li>(2) 保育所の社会的役割と責任</li> </ol> </li> <li>2. 観察に基づく保育理解 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 子どもの心身の状態や活動の観察</li> <li>(2) 保育等の動きや実践の観察</li> <li>(3) 保育所の生活の流れや展開の把握</li> </ol> </li> <li>3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会などとの連携 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解</li> <li>(2) 入所している子どもの保護者支援と地域の子育て家庭への支援</li> <li>(3) 地域社会との連携</li> </ol> </li> <li>4. 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解</li> <li>(2) 作成した指導計画に基づく保育実践と評価</li> </ol> </li> <li>5. 保育士の業務と職業倫理 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 多様な保育の展開と保育士の業務</li> <li>(2) 多様な保育の展開と保育士の職業倫理</li> </ol> </li> <li>6. 自己の課題の明確化</li> </ol>				
指導方法 履修上の 注意	<p>保育に関連する教科書・参考文献を読む、また遊びの具体例などについて情報を集めて習熟しておくなど、実習に向けて積極的に自己学習のプランを立て実行すること。</p>				
成績評価の 方法	<p>実習施設による評価（50％） 実習日誌（30％） 実習課題（20％）</p>				
教科書	<p>『実習の手引き』（実習委員会） 『教育・保育・施設実習の手引き』（松本峰雄編著、建帛社） 『保育所保育指針』</p>				
参考文献	<p>保育所実習研究の授業で使用する教科書及び参考文献を参照すること。</p>				

授業科目	施設実習	単位数	2	担当教員	秋山展子
講義のねらいと概要	<p>施設実習は、児童福祉法第40条による児童厚生施設 - 児童館での実習である。</p> <p>子どもにあそびを提供し、地域の子育て支援サービス機関、放課後児童健全育成事業（学童保育）の実施場所、地域の子育て支援組織でもある母親クラブの活動支援、児童を取り巻く地域社会の組織化への取り組み等、地域における子育て支援の実態と、児童厚生員として職務への関わりを、実際の活動を通して学ぶ。施設実習は、2月初旬から10日間以上で実施する。</p>				
授業計画	<p>児童館実習の内容</p> <p>児童館の役割、意義について実践を通じて理解する。</p> <p>一日の活動プログラムの理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・母親クラブの活動について</li> <li>・館全体のプログラム</li> <li>・放課後児童クラブのプログラム</li> </ul> <p>活動への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導職員の助手の立場に立って、参加実習から、実習後半では部分指導実習、責任担当実習にはいる。</li> </ul> <p>職員、児童の家族、地域社会との関係の学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員集団等専門家集団のチームワーク</li> <li>・児童の家庭、地域との関わり方</li> <li>・児童館と高齢者・ボランティア等の関わりを学ぶ</li> </ul>				
指導方法履修上の注意	<p>児童館実習派遣には、「児童館の機能と運営」の単位取得が必要条件であり、「児童館の機能と運営」が後期受講のため、授業の進行の過程で、「児童館の機能と運営」の単位取得可能と判断された場合にのみ実習先の配当を行う。</p>				
成績評価の方法	<p>実習評価（80％） 実習日誌（20％）</p>				
教科書					
参考文献					



授業科目	保育所実習研究	単位数	1	担当教員	土屋 由
講義のねらいと概要	<p>保育所実習研究は、前期保育所実習（2年次2月）の事前事後指導である。事前指導では、保育所実習の意義や目的を理解する、実習課題を明確にする、実習記録の意義や記録方法・指導計画を学ぶなど、実習に関する必要な知識と心構えを身につけることを目的とする。事後指導では、実習に対する自己評価・反省を求め、後期保育所実習に向けての課題を明らかにし、前期実習から後期実習へと保育についての学びを深めていけるよう必要な準備を行っていく。</p>				
授業計画	第1週	オリエンテーション			
	第2週	保育所実習の意義・目的の理解			
	第3週	前期実習の内容の理解			
	第4週	保育所についての理解			
	第5週	実習の心構え			
	第6週	実習に必要な書類の作成			
	第7週	実習に必要な書類の作成			
	第8週	実習課題を明らかにする			
	第9週	実習記録の意義の理解			
	第10週	実習記録の実際と方法			
	第11週	実習記録の実際と方法			
	第12週	実習に必要な実技の確認			
	第13週	オリエンテーションと実習中の心得			
	第14週	実習内容の振り返りとまとめ			
	第15週	後期保育所実習への課題			
指導方法履修上の注意	<p>授業では、保育園での子どもの生活や実際の実習内容のイメージがもてるように、視聴覚教材やワーク・シートを活用する。実習に関する知識を身につけ、必要な準備を進めるために、原則として欠席はしないこと。</p>				
成績評価の方法	<p>課題・レポート（60%）、授業態度（30%）、手続き（10%）</p>				
教科書	<p>『実習の手引き』（実習委員会）、『教育・保育・施設実習の手引き』（松本峰雄編著、建帛社）、『保育所保育指針』</p>				
参考文献	<p>『実習日誌の書き方』（相馬和子他、萌文書林）、『育ちのきほん』（神田英雄、ひとなる書房）</p>				

授業科目	福祉施設実習研究 I		単位数	1	担当教員	近喰晴子・秋山展子
講義のねらいと概要	福祉施設実習研究 I は、学内における福祉施設実習の事前・事後指導のための授業である。実習の目的や実習内容を学ぶほか、実習に必要な書類の作成、実習施設の情報、事務的な連絡も行う。実習終了後は、体験を振り返り、学んだことをさらに深める取り組みを行う。					
授業計画	第1週	施設実習の概要	第16週	実習を終えて		
	第2週	施設実習の目的や意義	第17週	実習報告書、自己評価等の書類記入		
	第3週	養護を必要とする児童福祉施設での実習	第18週	自己課題と今後の学習課題		
	第4週	障がい児・者のための施設での実習	第19週	自己課題への取り組み ①		
	第5週	実習書類の作成 ①	第20週	自己課題への取り組み ②		
	第6週	実習書類の作成 ②	第21週	個別面談 ①		
	第7週	実習書類の作成 ③	第22週	個別面談 ②		
	第8週	実習内容	第23週	実習報告会		
	第9週	実習課題の検討	第24週			
	第10週	実習日誌の書き方	第25週			
	第11週	事前訪問の目的・訪問時のマナー	第26週			
	第12週	実習中の留意点	第27週			
	第13週	実習施設研究 ①	第28週			
	第14週	実習施設研究 ②	第29週			
	第15週	実習直前指導	第30週			
指導方法 履修上の 注意	学内実習という意識で授業に臨むこと。無断欠席や無断遅刻・早退は原則として認めない。授業時の学習態度によっては実習に参加できないこともあるので注意すること。					
成績評価の 方法	レポート（50%）、課題（20%）、実習書類（20%）、授業態度（10%）					
教科書	『福祉施設実習ハンドブック』（著者名、岡本幹彦 出版社名 みらい 2000円）					
参考文献						

授業科目	保育所実習研究		単位数	1	担当教員	土屋 由
講義のねらいと概要	<p>保育所実習研究 は、後期保育所実習（3年次9月）の事前事後指導である。事前指導では、後期保育所実習の目的や内容を理解すること、実習課題を明確にすること、指導計画の作成や実習に必要な実技を確認することを行っていく。事後指導では、実習の総括と自己評価を求め、実習報告会などの振り返りの場を通して、保育についての課題を明確にしていく。</p>					
授業計画	第1週	後期実習の目的・内容の理解				
	第2週	実習に必要な書類の作成				
	第3週	実習に必要な書類の作成				
	第4週	実習課題を明らかにする				
	第5週	指導案作成上の基本の確認				
	第6週	指導案の立案 幼児クラス主活動				
	第7週	指導案の立案 幼児クラス生活場面				
	第8週	指導案の立案 未満児クラスの場合				
	第9週	指導案の立案 未満児クラスの場合				
	第10週	実習に必要な実技の確認				
	第11週	実習記録の実際と方法				
	第12週	実習内容の振り返りとまとめ				
	第13週	実習報告会の準備				
	第14週	実習報告会				
	第15週	実習の総括				
指導方法履修上の注意	<p>指導案の作成にあたり、様々な授業を通して学んできた遊びや造形表現のアイデアが必要になる。子どもとの活動に際して、役に立ちそうなものをノートにまとめておくなど、学びに対する主体的な態度をもつよう心掛けてほしい。実習について必要な準備を進めるため、原則として欠席はしないこと。</p>					
成績評価の方法	課題・レポート（60%）、授業態度（30%）、手続き（10%）					
教科書	『実習の手引き』（実習委員会）、『教育・保育・施設実習の手引き』（松本峰雄編著、建帛社）、『保育所保育指針』					
参考文献	『幼稚園・保育所実習の活動の考え方と計画・展開の仕方』（大場牧夫他、萌文書林）					

授業科目	福祉施設実習研究	単位数	1	担当教員	秋山展子
講義のねらいと概要	<p>施設実習である児童館実習を履修する学生は必ず履修しなければならない。授業は実習の前後にわたって実施される。実習前の授業では、児童館の実際の活動内容理解のため、各地の児童館の活動を映像で紹介や、実習内容について先輩の実習報告を参考に理解を深め、実習への動機付けを図る。その上で実習の目的やねらい、実習手続き書類、特に実習調査書の作成をはじめ、必要書類・検査用品等の作成、配布を行う。</p> <p>実習後においては、児童館からの評価を土台に、良かった点、反省点や今後の課題を明確にし、次の実習へつなげていく。児童館実習には、「児童館の機能と運営」の履修が必要条件である。</p>				
授業計画	第1週	児童厚生員 - 資格の説明と取得までの手順の説明			
	第2週	児童館実習参加申込書の配布と申込書の提出			
	第3週	児童館実習の意義、目的の理解。実習参加への心構え			
	第4週	児童館実習参加者の体験談を聞き、その感想文を通して、文章の書き方を学ぶ - 1			
	第5週	児童館実習参加者の体験談を聞き、その感想文を通して、文章の書き方を学ぶ - 2			
	第6週	調査書の作成 - 下書き			
	第7週	調査書の作成 - 下書き			
	第8週	調査書の作成 - 清書			
	第9週	実習日誌の記入の意義について			
	第10週	実習日誌の記入方法(例示)			
	第11週	オリエンテーションについて			
	第12週	指導案の概要と作成			
	第13週	細菌検査の方法とその方法			
	第14週	実習後の対応-礼状等 - について			
	第15週	実習直前指導(実習への心構え、緊急時への対応の確認等々)			
指導方法履修上の注意	<p>実習に関する説明、書類の作成や提出等を行うので、特別な理由がない限り欠席は認めない。また実習関係書類の提出遅延、授業の欠席等が多い場合は、「実習派遣規制基準」に基づいて、「実習派遣の中止」となる。また保育士資格と履修科目が重なっているため、保育士資格が取得できない場合、児童厚生員資格の取得はできなくなることを承知しておく。</p>				
成績評価の方法	授業態度、取り組み姿勢(100%)				
教科書	授業でプリントを配布				
参考文献					

授業科目	国語教育	単位数	2	担当教員	高原典子
講義のねらいと概要	<p>国語教育は、大学の学業にとっても、実習・ボランティア・就職などの活動にとっても、読む・書く・話す・聞くという言葉表現を磨くために大変重要です。</p> <p>この教科では、実践的な場面でも役に立つように敬語表現・お礼状などの手紙の書き方・作文のしかた・メールのマナーなどを学び、媒体や相手に適した国語表現ができるようになることを目指します。さらに保育における子ども達への国語教育にも役立つように、日本のすぐれた少年詩を読み味わい、子ども達と口ずさめるような演習を行います。</p>				
授業計画	第1週	本科目のねらいと保育実践における少年詩について 子どもと口ずさむ感動的な詩 新美南吉「天国」	敬語の基礎(教科書 P27 ~ 30)		
	第2週	敬語の基礎と応用(教科書 P31 ~ 34) 子どもと口ずさむ自然の詩 北原白秋「お月夜」			
	第3週	敬語の応用(教科書 P35 ~ 38) 子どもと口ずさむ自然の詩 佐藤義美「おちばのうた」			
	第4週	実習日誌・部分実習指導案における国語表現 (教科書 P5 ~ 26) 子どもと口ずさむ自然の詩 工藤直子「やまのこもりうた」			
	第5週	実習日誌・部分実習指導案における国語表現 (教科書 P5 ~ 26) 子どもと口ずさむ自然の詩 こわせたまみ「ちらちらゆき」			
	第6週	手紙の書き方 (教科書 P39 ~ 48) 子どもと口ずさむ自然の詩 サトウハチロー「春になりました」			
	第7週	実習園へお礼状を書く演習			
	第8週	手紙の書き方 (教科書 P39 ~ 48) 子どもと口ずさむ自然の詩 清水たみ子「きのめ」			
	第9週	文の書き方(教科書 P52 ~ 55) 子どもと口ずさむ自然の詩 川崎洋「たんぼぼ」			
	第10週	「手紙の書き方」についての小テストとまとめ 子どもと口ずさむ自然の詩 岸田衿子「きのうのかぜは」			
	第11週	原稿用紙の使い方、履歴書の書き方と作文について(教科書 P56 ~ 63) 子どもと口ずさむ愉快な詩 村山壽子「もしもあめのかわりに」			
	第12週	「私のめざす保育者像」をテーマに、作文を書く。 子どもと口ずさむ愉快な詩 谷川俊太郎「おならうた」			
	第13週	推敲のポイントを学ぶ 子どもと口ずさむ感動的な詩 鶴見正夫「おとうさん」			
	第14週	「文の書き方」「敬語」についてのテストとまとめ			
	第15週	総括 子どもと口ずさむ感動的な詩 糸井重里「おめでとうのいちねんせい」			
指導方法 履修上の 注意	<p>本教科では毎週教科書を使用しますので、忘れないように準備して下さい。</p> <p>学習内容は実習などに対応できるよう臨機応変に追加します。学習のまとめとしてテストを行い、知識の定着を図ることを目指します。</p>				
成績評価の 方法	筆記試験(40%)、授業中の小レポート(40%)、授業態度(20%)				
教科書	『保育学生のための実践国語演習』(原田留美著、おうふう)				
参考文献	『私の中の子どもと詩』(今井和子著、アイ企画)、『基礎からの国語表現の実践』(樺島忠夫他著 京都書房)『日本語の作文技術』(本多勝一著 講談社)				

授業科目	数 量 教 育	単位数	2	担当教員	星 野 治
講義のねらいと概要	<p>私たちの社会は、「数」・「量」・「形」を抜きにしては成り立ちません。子供たちが幼少時から「数」・「量」・「形」に慣れ親しんでいくことは、彼らの社会感覚の形成過程に際して、重要な鍵の一つとなるはずですが。</p> <p>この授業では、「数」・「量」・「形」の意味するもの、「数」・「量」・「形」の取り扱われかたを再度見直して、幼児の将来の学校活動（例：算数授業への参加など）や社会活動（例：買い物など）に無理なく結び付けられるような、数量教育指導のありかたを考えます。</p>				
授業計画	第1週	【数の面白さ・不思議さ】 “数”のもつ魅力を概観します。			
	第2週	【言葉としての数】 “数”が言葉の一種であることを再確認します。			
	第3週	【数の種類】 実際に使われている、いろいろな“数”を概観します。			
	第4週	【数量と図形との関係】 “かず”と“かたち”との対応を概観します。			
	第5週	【生活の中の数・量・形】 日常の諸活動の中に登場する“数”を概観します。			
	第6週	【遊びの中の数・量・形】 いろいろな遊びの中に垣間見られる“数”を概観します。			
	第7週	【数・量に関する先人の知恵(1)】 実用されている様々な“単位”の意味を概観します。			
	第8週	【幼児教育における数・量・形】 未就学児にとって必要な“数”とは何かを、改めて見直します。			
	第9週	【数・量に関する先人の知恵(2)】 これまでに考案されてきた、実用的な数値処理手法について概観します。			
	第10週	【文芸作品の中の数・量・形(1)】 “数”の観点から、往年の名作（主に文章作品）を鑑賞し直します。			
	第11週	【文芸作品の中の数・量・形(2)】 “数”の観点から、往年の名作（主に映画作品）を鑑賞し直します。			
	第12週	【小・中学校の算数・数学(1)】 文部科学省の学習指導要領のうち、小学校の算数に関する内容を概観します。			
	第13週	【小・中学校の算数・数学(2)】 文部科学省の学習指導要領のうち、中学校の数学に関する内容を概観します。			
	第14週	【全体のまとめ】 「数」・「量」・「形」に対する教育のありかたを、各自なりに整理します。			
	第15週	【試験および総括】 授業の前半は試験を行い、後半は試験問題の解説などを行います。			
指導方法 履修上の 注 意	<p>講義形式によります。</p> <p>授業の進行都合により、開講順序を変更する場合があります。</p> <p>この授業で取り扱う話題は、いわゆる数学上の話題とは異なり、解答が一つだけであるとは限りません。また、個々の話題の内容を理解する際に、幅広い背景知識が求められる場合が多くなります。したがって、“自分自身ならばこう考える”という、能動的な態度で履修することが望ましいと考えます。</p>				
成績評価の 方 法	筆記試験（70%）、授業態度（30%）				
教 科 書	<p>必要に応じて指定します。</p> <p>他の授業科目で使用する教科書を、この授業でも使用する場合があります。</p>				
参 考 文 献	<p>必要に応じて随時紹介します。</p> <p>他の授業科目で使用する参考文献を、この授業でも使用する場合があります。</p>				

授業科目	保 育 者 論	単位数	2	担当教員	岸 井 慶 子
講義のねらいと概要	<p>「保育原理」で学習した内容を基盤にしながら、保育者の役割と倫理、制度的な位置づけ、保育者の専門性や協働性、専門職としての成長などについて、講義やディスカッションを通して理解を深めていく。具体的には次の内容をねらいとする。</p> <p>保育者に求められているものが説明できる</p> <p>どのような保育者に自分になりたいのか、そのためには何が課題かわかり説明できる</p>				
授業計画	第1週	オリエンテーション			
	第2週	保育者に求められるもの（どのような保育者になりたいか、なりたくないか）			
	第3週	保育者に求められるもの（なぜそう考えるか）			
	第4週	保育者の仕事内容（保育所での一日の仕事）			
	第5週	保育者の仕事内容（幼稚園、施設での一日の仕事）			
	第6週	保育者の仕事内容（まとめ、保育者の専門性）			
	第7週	保育士の役割と責務、倫理（保母から保育士へ、制度的な位置づけ、保育士の仕事の場、倫理綱領）			
	第8週	見られている保育者（子どもは保育者をどう見ているか、何を求めているか）			
	第9週	見られている保育者（保護者は保育者をどう見ているか、何を求めているか）			
	第10週	見られている保育者（地域との関係、社会の中での保育者）			
	第11週	成長する保育者（園内研修、実践の振り返り、反省的实践家、成長俯瞰図）			
	第12週	成長する保育者（保育者のライフステージ）			
	第13週	歴史の中の保育者（保育を創り、支えてきたさまざまな保育者たち）グループ作業			
	第14週	歴史の中の保育者（保育を創り、支えてきたさまざまな保育者たち）発表			
	第15週	まとめ（求められる保育者像から、になりたい保育者像へ）			
指導方法 履修上の 注意	<p>自分なりに、積極的に「自分なりの、になりたい保育者像」を求めてください。</p> <p>先人の取り組みを学び、レポートにまとめ提出してください。</p>				
成績評価の 方法	レポート（40%）、課題（60%）				
教科書	『保育者論の探求』（森上史朗、岸井慶子編 ミネルヴァ書房）				
参考文献	授業の中で必要に応じて紹介します。				

授業科目	教 育 社 会 学	単位数	2	担当教員	金子 真由子
講義のねらいと概要	<p>現代社会には 教育 をめぐる問題やトピックには事欠かない。また、今日の日本では、ほとんどの人が高校に進学し、さらに大学や短大などの高等教育を受ける人が7割に至る。このように、現代社会に生きる私たちは、教育 と無縁でいることはできないと言える。教育社会学は、現代社会と密接な関係にある 教育 というものに、社会学という学問的立場からアプローチをするものである。特に、この講義では、保育者を目指す学生に対して、毎回具体的な 保育 や 子ども に関する話題を取り上げるので、現代の子どもが置かれている状況に理解を深めてほしいと思う。</p>				
授業計画	第1週	子どもと保育 の社会学とは何か			
	第2週	子ども観の歴史と現代の社会事情			
	第3週	人口減少時代のなかの子育て			
	第4週	子どもは地域社会で何を学ぶか			
	第5週	家族と子育て			
	第6週	子ども・家族を見通した子育て支援			
	第7週	保育者の実践とジェンダー形成			
	第8週	保育所・幼稚園へのクレーム			
	第9週	学級経営			
	第10週	なぜ保育者には短大卒が多いのか			
	第11週	保育者のライフコース			
	第12週	保育者は専門職か			
	第13週	早期教育と現代の子育て事情			
	第14週	子どもとメディア			
	第15週	試験・まとめ			
指導方法履修上の注意	<p>プリントを配布することがあるので、プリントや学習内容を記録したものを1冊のノート(ファイル)にまとめること。 授業には積極的に参加すること。</p>				
成績評価の方法	筆記試験(60%)、授業時に行うレポート(40%)				
教科書	『社会のなかの子どもと保育者』(小堀哲郎編著、創成社)				
参考文献	授業中に適宜紹介する。				



授業科目	保 育 課 程 論	単位数	2	担当教員	鯛 谷 和 代
講義のねらいと概要	<p>保育所保育指針、幼稚園教育要領の趣旨を理解し、全在所、在園期間を見通した資料による保育構想から、長期（年間・期・月など）短期（週・日・特定の活動など）の指導計画の全体像を学び取り、実際に指導計画をたてながら、保育課程について学んでいく。</p>				
授業計画	第1週	保育課程の考え方			
	第2週	幼児教育における保育課程の独自性			
	第3週	保育所保険指針について（保育所における保育課程）			
	第4週	幼稚園教育要領について（幼稚園における教育課程）			
	第5週	保育課程の編成について（1）			
	第6週	保育課程の編成について（2）			
	第7週	子どもの発達と指導計画について			
	第8週	保育課程と指導計画（保育の全体計画）			
	第9週	保育園・幼稚園をデザインしてみよう			
	第10週	長期の指導計画について			
	第11週	短期の指導計画について			
	第12週	指導計画の作成の手順			
	第13週	保育所・幼稚園における保育の評価			
	第14週	保育所児童保育要録・幼稚園幼児指導要録			
	第15週	試験およびまとめ			
指導方法 履修上の 注意	毎回の資料を整理し、第13週に一冊の資料として提出。				
成績評価の 方法	筆記試験（50%）、資料（30%）、授業態度（20%）				
教科書	『幼稚園教育要領解説・保育所保育指針』				
参考文献	『埼玉県幼稚園教育課程指導資料』				

授業科目	保育内容（音楽表現）	単位数	1	担当教員	大輪 公 啓
講義のねらいと概要	保育内容（音楽表現）を基礎とし、教師としてより高いメチエ（技術）、知識そして指導理念を学び、アカデミズムにより磨きをかけます。ここでもソルフェージュ（音感訓練）をベースとしています。				
授業計画	第1週	ハンガリーにおける音楽教授法をコダーイを中心に学ぶ。（トニック・ソルファ、各種リズム練習、聴覚訓練、音楽のさまざまな形式）			
	第2週	〃			
	第3週	〃			
	第4週	〃			
	第5週	〃			
	第6週	〃			
	第7週	〃			
	第8週	ダルクローズを中心とした音楽教授法を中心とした音楽教授法を学ぶ。（聴音歌唱、音階練習、旋律練習）			
	第9週	〃			
	第10週	オルフを中心とした音楽教授法を学ぶ。（リズム模倣、リズム創作、旋律創作、簡易なリズム伴奏、 Rondó による即興）			
	第11週	〃			
	第12週	〃			
	第13週	〃			
	第14週	マーセルの身体的リズム練習への指摘事項を中心に学ぶ。			
	第15週	まとめ			
指導方法履修上の注意	毎回必ず五線ノートを用意のこと。				
成績評価の方法	筆記試験（40%）、レポート（30%）、授業態度（30%）				
教科書	『「幼児の音楽教育」- 音楽的表現の指導 -』（音楽教育研究協会）				
参考文献	『幼稚園教育要領・保育所保育指針』（チャイルド本社）、『ソルフェージュ教授法』（Z.エルジェーベト、全音楽譜出版社）、『リズムと音楽教育』（E. J.ダルクローズ、全音楽譜出版社）、『子どものための音楽』（C.オルフ、日本ショット社）				

授業科目	保育内容（造形表現）	単位数	1	担当教員	市瀬恭子
講義のねらいと概要	<p>造形表現に引き続き、幼児の遊びをイメージしながら、創りだしていく喜びや、楽しさを保育者自らが感じ、五感を働かせて創造性を豊かにすることを目標とする。</p> <p>感性に働きかけるアーティストからの提言として、ブルーノ・ムナーリとエリック・カールをとりあげ、彼らのプログラムを演習する。</p>				
授業計画	第1週	アーティストからの提言 エリック・カール			
	第2週	エリック・カールの絵本 ビデオを鑑賞する。			
	第3週	エリック・カールのプログラム	色紙づくり		
	第4週	エリック・カールのプログラム	コラージュによる作品制作		
	第5週	エリック・カールのプログラム	コラージュによる作品制作		
	第6週	まとめと評価			
	第7週	アーティストからの提言 ブルーノ・ムナーリ			
	第8週	ブルーノ・ムナーリプログラムから	「木をかこう」	平面	
	第9週	ブルーノ・ムナーリプログラムから	「木をかこう」	平面	
	第10週	ブルーノ・ムナーリプログラムから	「木をつくろう」	立体	
	第11週	ブルーノ・ムナーリプログラムから	「木をつくろう」	立体	
	第12週	自分の感性と向き合う ワークショップ			
	第13週	指導案の事例から考える（1）			
	第14週	指導案の事例から考える（2）			
	第15週	まとめ			
指導方法 履修上の 注意	<p>制作を中心に進めていく</p> <p>自分の課題に応じて、使用する材料、用具を準備する。</p> <p>制作に要する材料費は本人負担とする。（300円程度）</p> <p>授業態度と作品に取り組む姿勢を重視する。</p>				
成績評価の 方法	レポート（30％）、作品（30％）、発表（10％）、授業態度（30％）				
教科書	『楽しい造形表現』（子ども造形表現研究会、圭文社）				
参考文献	参考書；『幼稚園教育要領 保育指針』（チャイルド社）				

授業科目	保 育 指 導 法		単位数	2	担当教員	岸 井 慶 子
講義のねらいと概要	<p>本授業では次の3点について具体的な事例をもとに学修し、実践的な指導技術の習得を目指す。</p> <p>乳幼児の生活を支えていくためにどのように一人ひとりの興味・欲求や発達を理解するかそれらの理解をもとに、どのような環境の構成と援助・指導をしたら良いか 様々な指導場面や活動内容における指導上の留意点はどのようなものか</p>					
	第1週	保育実践の基本	第16週	保育の計画		
	第2週	援助・指導の基本	第17週	指導計画		
	第3週	子どもの発達と保育	第18週	指導案の実際		
	第4週	遊びの意義、指導と展開	第19週	指導案に基づいた実践と評価		
	第5週	遊びの環境、保育者のかかわり	第20週	自然とかかわる保育活動と指導の実際		
	第6週	けんかやいざこざの指導	第21週	園外を取り入れた保育活動		
	第7週	園庭遊具と保育	第22週	保育におけるメディアの活用		
	第8週	遊具の安全と管理	第23週	行事と保育		
	第9週	遊具の安全と管理	第24週	園行事の実際		
	第10週	室内遊具の活用	第25週	保育の評価		
	第11週	保育教材研究1(視聴覚教材)	第26週	指導要録について		
	第12週	保育教材研究2(手遊び・歌遊び)	第27週	保護者とかかわり		
	第13週	保育教材研究3(製作)	第28週	保育者の資質と研修		
	第14週	生活場面の指導の実際	第29週	これからの保育にもとめられること		
	第15週	まとめ	第30週	まとめ		
指導方法履修上の注意	<p>できるだけ具体的な事例を基に進めていく。個人の課題やグループの課題・討議に積極的に参加することを望む。</p>					
成績評価の方法	<p>課題・レポート(60%)、発表(20%)、授業態度(20%)</p>					
教科書	<p>『幼稚園教育要領・保育所保育指針』(チャイルド本社)</p>					
参考文献	<p>授業の中で必要に応じて紹介する。</p>					

授業科目	教育方法・技術論	単位数	1	担当教員	金子 真由子
講義のねらいと概要	<p>幼児教育における教育方法と技術に関する基本的な事柄について学ぶ。また、情報機器やそれらを活用した教材の活用、教材作成の技術と方法について学び、実際に教材を作成し、プレゼンテーションを行う。</p> <p>基本的な教育方法について説明できるようになること、また、具体的な情報機器や情報メディアを通じて、教育目標に即した教材を作成できるようになることを本講義の目標とする。</p>				
授業計画	第1週	授業ガイダンス（教育方法とは何か）			
	第2週	教育方法の基本原理			
	第3週	幼児教育における遊びと経験			
	第4週	幼児教育における方法と技術			
	第5週	幼児教育における保育の形態			
	第6週	様々な幼児教育の方法			
	第7週	教育における評価			
	第8週	教育メディアとその活用			
	第9週	ワープロを活用した教材作成（作図機能の基礎）			
	第10週	ワープロを活用した教材作成（作図機能と描画の活用）			
	第11週	プレゼンテーションソフトの活用（基本操作）			
	第12週	プレゼンテーションソフトの活用（指導および教育への応用）			
	第13週	プレゼンテーションの作成技術			
	第14週	プレゼンテーションの技法			
	第15週	まとめ			
指導方法 履修上の 注意	<p>適宜プリントを配布するので、プリントや学習内容を記録したものを1冊のノート（ファイル）にまとめること。</p> <p>毎時間、課題にきちんと取り組むこと。</p> <p>学生相互が発表する機会を持ち、プレゼンテーション能力や聞く態度の養成も行う。</p>				
成績評価の方法	課題（60%）、発表（40%）				
教科書	『30時間でマスター WindowsVista 対応 Office2007』（実教出版編修部、実教出版）				
参考文献	『コンピュータを活用した保育の実際』（倉戸直実・岸本義博、北大路書房）				

授業科目	教 育 相 談	単位数	2	担当教員	伊 藤 明 芳
講義のねらいと概要	<p>教育相談は、保育者が相談者（主に保護者）に対して、家庭や幼稚園における子どもの教育上の問題について、その望ましい解決に向けて助言や援助指導をおこなう実践活動である。</p> <p>背景に発達や環境の要因があると推測される子どもの問題行動から保護者の養育不安まで、相談内容は多岐にわたる。これからの保育者には保護者の心へのサポートもより意識的に求められるようになって考えられる。</p> <p>本講義では、教育相談の基礎的知識の習得と現場で生きる教育相談の実践的能力の育成を図る。さらに、保育者自身の心の安定と成長にもアプローチしたいと考えている。</p>				
授業計画	第1週	1. イントロダクション 教育相談とは何か			
	第2週	2. 体験から学ぶ相談に必要なこと ロールプレイ(1) [ 相談を受ける時の基本姿勢 ]			
	第3週	ロールプレイ(2) [ 意思を通じあうこと ]			
	第4週	3. 相談実践の基本と応用 教育相談の基礎(1) [ 概要 ]			
	第5週	教育相談の基礎(2) [ 実践へのヒント ]			
	第6週	教育相談のためのカウンセリング活用			
	第7週	教育相談のための心理アセスメント			
	第8週	教育相談のプロセス			
	第9週	4. 事例から学ぶ教育相談 子どもの心の発達・心の問題(1) [ 登園渋り ]			
	第10週	子どもの心の発達・心の問題(2) [ 落ち着きなし ]			
	第11週	子どもの心の発達・心の問題(3) [ 保護者の心 ]			
	第12週	5. 保育者の心の健康を育む カウンセリングの理論			
	第13週	エンカウンター実習			
	第14週	まとめ			
	第15週	今後へのアドバイスと試験			
指導方法 履修上の 注 意	<p>講義を中心におこなう。実際の事例などをあげ、受講生にわかりやすい内容を心がけたい。</p> <p>その他、ロールプレイ、エンカウンター等も取り入れ、相談やカウンセリング等の体験的な学習もおこないたい。</p> <p>相談を受けて人に関わる時、保育者には人間的かつ専門的な総合力が必要になる。そこで、受講者には積極的に授業に参加し、自ら学び考える意欲を持つことが求められる。</p>				
成績評価の 方 法	筆記試験（60％）、課題（40％）				
教科書	特に指定しない				
参考文献	講義の中で必要に応じて適宜紹介する				

授業科目	幼 児 教 育 実 習	単位数	4	担当教員	近 喰 晴 子
講義のねらいと概要	<p>学内で学んだ理論や技能が、幼児教育の現場でどのように活かされ応用することができるかということなどを体験的に学び、保育の営みを総合的に理解する。また、子どもの活動に参加し子ども理解に努めるとともに、保育者の助手的立場を体験しながら保育者の職務理解に努める。観察・参加実習を中心とした前期実習を2年時に、参加・責任実習を中心とした後期実習を3年時に実施する。</p>				
授業計画	前期実習	実習園の日課を理解する。	後期実習	配属クラスの日課を理解する。	
		配属クラスの子どもの名前を覚える。		配属クラスの子どもの名前を覚える。	
		子どもの遊びに参加する。		子どもの遊びに参加し活動の実態を把握する。	
		保育の進め方を観察する。		保育者の導入や指導方法を学ぶ。	
		環境の構成について学ぶ。		保育活動に部分的に参加する。	
		絵本の読み聞かせや紙芝居などを実践する。		部分実習をする。	
		子どもの興味・関心や思考傾向について知る。		責任実習にむけ教材研究、指導計画作成などの準備をする。	
		保育者の職務について学ぶ。		責任実習を行う。	
		幼稚園の保育について総合的に学ぶ。		幼稚園の機能や役割について学ぶ。	
		前期実習を振り返り後期実習の課題をまとめる。		後期実習全般の評価をする。	
指導方法履修上の注意	<p>「幼児教育実習研究」で学んだことを参考に、実習園の指導に従って実習が行われる。実習が効果的に行われるよう事前準備をしっかり行い、謙虚な気持ちで指導を受けること。</p>				
成績評価の方法	<p>実習園評価（50%）、実習記録（30%）、課題（20%）</p>				
教科書	<p>『幼稚園教育要領』（文部科学省） 子どもの育ちを支える 幼稚園実習（大学図書出版）</p>				
参考文献					

授業科目	幼児教育実習研究		単位数	1	担当教員	近喰晴子・永井めぐみ
講義のねらいと概要	教育実習に必要な知識や技能を総合的に学び、効果的な実習となるよう準備を進めるための学内実習授業である。実習に必要な書類の準備、教材研究、評価・反省などを含み不安なく学外実習に臨めるようにする。					
授業計画	第1週	教育実習の目的や意義	第16週	前期実習を終えて		
	第2週	幼稚園とは	第17週	実習報告書の作成		
	第3週	幼稚園の一日の生活	第18週	前期実習の自己評価とレポート		
	第4週	幼稚園の保育内容	第19週	後期実習の課題と学習計画		
	第5週	実習書類の作成 ①	第20週	園評価と実習録評価について個別面談 ①		
	第6週	実習書類の作成 ②	第21週	園評価と実習録評価について個別面談 ②		
	第7週	保育者の一日の生活	第22週	後期実習にむけて		
	第8週	実習課題の作成	第23週	書類の作成		
	第9週	前期実習の目的	第24週	実習課題		
	第10週	事前訪問の意義とマナー	第25週	教材研究		
	第11週	オリエンテーション報告	第26週	指導計画		
	第12週	実習記録の書き方 ①	第27週	事前訪問と実習時のマナー		
	第13週	実習記録の書き方 ②	第28週	後期実習の反省と評価		
	第14週	実習中のマナーや関わり上の留意点	第29週	実習報告書類等の記入		
	第15週	前期実習に向けて	第30週	実習報告会		
指導方法 履修上の 注 意	この授業は、学内実習として実習単位に換算される授業である。したがって無断欠席や遅刻早退、授業態度の良し悪しは実習派遣規制にかかわってくるので注意すること。また、実習に関する重要な情報を聞き逃し、必要書類が整えられないなどの原因となるので留意すること。					
成績評価の 方 法	レポート（50%）、課題（30%）、授業態度（20%）					
教 科 書	子どもの育ちを支える 幼稚園実習（大学図書出版）					
参 考 文 献	『幼稚園教育要領』（文部科学省）					



授業科目	保育・教職実践演習（幼稚園）	単位数	2	担当教員	岸井・土屋・伊藤・金子
講義のねらいと概要	<p>将来の教員像を描けるように、教職の意義を実践的な演習体験を通して学び直し、自己の課題を自覚し、教職生活が円滑にスタートできるようにする。以下 4 つの具体的なテーマを中心に履修する。</p> <p>使命感や責任感、教育的愛情に関する事項      社会性や対人関係能力に関する事項          幼児理解や学級経営に関する事項      教科・保育内容等の指導力に関する事項</p>				
授業計画	第1週	授業の進め方、グループ分け、課題指示など			
	第2週	- 1 子どもに誠実に接すること・公平に接すること・責任観を持って接することについて、実践事例をもとに討議を行う。			
	第3週	2 保育者の倫理観と規範意識について、実践事例をもとに討議を行う。			
	第4週	- 3 子どもの成長や安全、健康に関する保育者の適切な行動について、指導案をもとに必要な配慮を検討する。			
	第5週	- 1 教育実習の経験から現場での人間関係の基本が身に付いたか、また、教員組織における役割やチームワークのあり方について体験を基に討論する。			
	第6週	- 2 前回話し合った具体的な事例をもとにした役割演技から望ましい教員の職務を体感して理解する。			
	第7週	- 3 体験をもとに、保護者や地域の関係者の意見や要望に耳を傾け、連携協力できるような良好な人間関係を築く方法を役割演技を通し理解する。			
	第8週	現職幼稚園教諭または教員経験者による講話			
	第9週	1 今日的な教育的課題に関し、履修者が実習等の経験にもとづく事例報告を相互に行う。			
	第10週	2 報告された事例への対応について議論を行う。			
	第11週	3 報告をもとに「個々の子どもの特性に応じた対応とは何か」を検討し理解を深める。			
	第12週	- 1 保育内容に関する教材研究を行い、それを生かした指導案を作成する。			
	第13週	- 2 指導案にもとづいた模擬保育を実践し、指導方法に対する討議を行う。			
	第14週	- 3 実践記録を作成し、記録にもとづいた保育の進め方について検証する。			
	第15週	授業全体のまとめと振り返り			
指導方法 履修上の 注意	～ はグループごとに実施する。実施順序はグループにより異なる。				
成績評価の方法	レポート（50%）、発表（30%）、授業態度（20%）				
教科書	『やさしく学べる 保育実践ポートフォリオ』（ミネルヴァ書房）				
参考文献	『全国保育士会倫理綱領』（全国社会福祉協議会）、『育ての心』（フレーベル館）児童権利条約				

授業科目	保 育 相 談 支 援	単位数	1	担当教員	加 賀 谷 崇 文
講義のねらいと概要	<p>保育現場において、保護者や子ども達の相談を受けることは現代の保育者にとって必須となる。従って、保育者を志す者は相談をどのように受ければよいのかを知っておく必要がある。</p> <p>この授業では、これまで学んできた心理カウンセリングの知識などを確認するとともに、実際の保育相談支援の現場を知ること、実践的な保育相談を学んでいく。</p>				
授業計画	第1週	保育相談支援の意義			
	第2週	保育相談支援の原則			
	第3週	ケースワークの原則とカウンセリング			
	第4週	保護者の支援			
	第5週	保育相談の基本的な方法			
	第6週	保育相談で扱われる事例1			
	第7週	保育相談で扱われる事例2			
	第8週	保育相談で扱われる事例3			
	第9週	保育相談で扱われる事例4			
	第10週	保育所以外の場所での保育相談			
	第11週	他機関との連携			
	第12週	保育者の専門性と保育所の特性を考える			
	第13週	実際の事例を検討する1			
	第14週	実際の事例を検討する2			
	第15週	まとめ			
指導方法 履修上の 注 意	<p>保育相談では、悩んでいる人の発言に耳を傾けその心情を理解する謙虚な態度が不可欠である。その姿勢を身につけるためにも授業をしっかりと聴き取るという構えを求める。</p>				
成績評価の 方 法	レポート（90％）、授業態度（10％）				
教 科 書	『事例で学ぶ保育のための相談援助・支援 その方法と実際』（須永進編著 同文書院）				
参 考 文 献					

授業科目	臨床心理学		単位数	2	担当教員	加賀谷 崇文
講義のねらいと概要	<p>現代社会では、不登校やいじめ・摂食障害など、こころの問題が原因と思われる現象が様々な場面で見られている。臨床心理学とは、このような問題を、どのように理解し、どのように援助していくかを考える学問である。このような視点を紹介した上で、我々が生活の中で、臨床心理学的な考えをどう活かしていくか考えていきたい。</p> <p>また、臨床心理学では幼少時の母子関係や発達課題などが数多く論じられている。それらを紹介し、幼少時の子どもとの付き合い方を考えていきたい。</p>					
授業計画	第1週	臨床心理学の定義	第16週	心理カウンセリングの定義		
	第2週	臨床心理学の実践	第17週	クライアント中心療法		
	第3週	臨床心理学の歴史(古代～メスメル)	第18週	クライアント中心療法の実践		
	第4週	臨床心理学の歴史(精神分析1)	第19週	心理アセスメントの定義		
	第5週	臨床心理学の歴史(精神分析2)	第20週	心理アセスメントの方法		
	第6週	ユングの童話分析	第21週	言語によるアセスメント		
	第7週	臨床心理学の歴史(心理学の技法)	第22週	非言語によるアセスメント		
	第8週	乳児期の母子関係1	第23週	心理テスト		
	第9週	乳児期の母子関係2	第24週	アセスメントと4つの水準		
	第10週	乳児期の母子関係3	第25週	精神分析の技法1		
	第11週	幼児期の母子関係1	第26週	精神分析の技法2		
	第12週	幼児期の母子関係2	第27週	催眠療法		
	第13週	児童期以降の発達	第28週	認知行動療法		
	第14週	前期の復習	第29週	リラクゼーションとイメージ療法		
	第15週	まとめ・前期試験	第30週	まとめ・後期試験		
指導方法 履修上の 注意	単に知識として学ぶのではなく、自分自身の心理や体験をふまえながら、臨床心理学を学べるように進めていきたい。					
成績評価の方法	筆記試験(90%)、授業態度(10%)					
教科書						
参考文献						

授業科目	地域子育て支援論		単位数	2	担当教員	加賀谷・土屋・金子・武田
講義のねらいと概要	<p>現代社会において、子育て支援は子育てをする家庭にとって非常に大きな力となっている。一方で、これらの取り組みが始まってからある程度の時間がたち、より地域に根差した新たな支援も考慮しなければならない。本講義では、地域における保育活動や子育て支援活動について諸説を学ぶとともに、実際の支援活動を行うことで「地域子育て支援」のあり方について学んでいくこととする。</p>					
授業計画	第1週	オリエンテーション	第16週	講義		
	第2週	実地演習に向けて（準備など）	第17週	実地演習 A・B		
	第3週	講義	第18週	講義		
	第4週	実地演習 A・B	第19週	実地演習 A・B		
	第5週	講義	第20週	講義		
	第6週	実地演習 A・B	第21週	実地演習 A・B		
	第7週	講義	第22週	講義		
	第8週	実地演習 A・B	第23週	実地演習 A・B		
	第9週	講義	第24週	講義		
	第10週	実地演習 A・B	第25週	実地演習 A・B		
	第11週	講義	第26週	講義		
	第12週	実地演習 A・B	第27週	実地演習 A・B		
	第13週	講義	第28週	講義		
	第14週	実地演習 A・B	第29週	実地演習 A・B		
	第15週	前期の振り返り	第30週	後期の振り返り		
指導方法 履修上の 注意	<p>他の受講生の意見や考え方を聞き、自分の考えと相対化することで自分の考えをさらに深めてほしい。</p>					
成績評価の方法	<p>授業態度（50%）、課題（50%）</p>					
教科書	<p>授業において紹介する。</p>					
参考文献	<p>授業において紹介する。</p>					

授業科目	カウ ン セ リ ン グ 論	単位数	2	担当教員	加賀谷 崇文
講義のねらいと概要	<p>心の悩みを解決する方法の一つとしてカウンセリングが挙げられる。カウンセリングの場面で重要なことは、悩んでいるクライアントの話を如何に聴き、如何に理解するかである。そこで本授業では、精神分析やロジャーズなどのカウンセリング理論を取りあげ、実習を交えながら、クライアントの悩みの聞き方を考えていく。</p> <p style="text-align: center;"><u>この授業でピアヘルパーの資格受験対策も行う。</u></p>				
授業計画	第1週	カウンセリングの定義			
	第2週	カウンセリングの初期の流れ			
	第3週	実際のカウンセリング			
	第4週	構成的グループ・エンカウンター			
	第5週	ピアヘルピングの方法1			
	第6週	ピアヘルピングの方法2			
	第7週	ピアヘルピングの方法3			
	第8週	ピアヘルピングの方法4			
	第9週	ピアヘルピングの方法5			
	第10週	ピアヘルピングの方法6			
	第11週	カウンセリングで起こりやすい問題点			
	第12週	様々な症例に対するカウンセリング			
	第13週	カウンセリングと保育			
	第14週	カウンセリングと子育て支援			
	第15週	まとめ			
指導方法履修上の注意	カウンセリングの理論の中から、人の悩みや話の聴き方を学んでいく。				
成績評価の方法	レポート(100%)				
教科書	『ピアヘルパー・ハンドブック』(日本教育カウンセラー協会編、図書文化社)、『ピアヘルパー・ワークブック』(日本教育カウンセラー協会編、図書文化社)				
参考文献					

授業科目	児童館の機能と運営	単位数	2	担当教員	秋山展子
講義のねらいと概要	<p>児童館（含児童センター）は、子どもに健全な遊びを与えてその健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とする児童福祉法による児童厚生施設である。少子化対策の推進の中で、児童館は、時代のニーズに応じ子育て支援や児童の健全育成、小学生及び中・高生の居場所づくりなど、地域の核となる児童福祉施設として重要な役割を担っている。授業では、居住地の児童館の位置の確認や、児童館活動の映像を土台に、児童館の歴史、目的、役割、利用状況、民営化(指定管理)の現状・課題を学ぶ。また実習で活用できる。工作遊び等も紹介したい。</p>				
授業計画	第1週	児童厚生員とその資格の説明			
	第2週	児童館の説明			
	第3週	居住地域内（市町村単位）の児童館・小学校の位置図の作成			
	第4週	「健全育成」とは			
	第5週	児童館の種別及び機能			
	第6週	小型児童館の設置及び運営			
	第7週	児童センター大型児童センターの設置及び運営			
	第8週	大型児童館の設置及び運営			
	第9週	これからの児童館の機能と役割			
	第10週	児童館活動を支える人々			
	第11週	児童館活動の実際 - 活動内容及び利用状況から			
	第12週	放課後児童健全育成事業の概要と実態			
	第13週	児童館の歴史			
	第14週	児童厚生員のあり方と児童館を支える団体			
	第15週	試験およびこれまでのまとめ			
指導方法 履修上の 注意	<p>授業の前半は、パワーポイントを使用して行う。後半は児童館のイメージをもつためにDVD上映や、実習で活用できる、ゲーム・歌・紙飛行機・お話・工作等小学生を対象とした遊びの紹介も行う。日頃から、幼児はもとより小・中・高生また親や地域に関する社会的事象に関心をもって受講すること。</p>				
成績評価の 方法	筆記試験（60％）、レポート（10％）、授業態度（30％）				
教科書	授業でプリント配布				
参考文献	『児童館 理論と実践』（児童健全育成推進財団）				

授業科目	福祉施設の現状	単位数	2	担当教員	松田鉄蔵
講義のねらいと概要	<p>児童福祉施設（障害関係施設は、児童施設から成人施設までを対象とする）での各施設種別毎の法制度、財政、職員の資質・研修・待遇等を通して、現状認識と、現実の問題点を通して、施設養護のあるべき姿を考察する。また福祉施設にたよらないで、家族の一員として暮らす里親制度の概略の理解の上に、保育資格と里親・専門里親の考えを構築する。施設内での体罰が増加している現状と、保育所での二件の園児の死亡事例、特に上尾保育所での死亡事故（平成17年）事例から保育所を含む福祉施設の「職員像」を考えていきたい。</p>				
授業計画	第1週	社会的養護の必要な子の現状について(施設関係にしぼって実施)			
	第2週	児童福祉施設の入所から退所までの手続き・家庭との関係(家庭調整) 地域と福祉施設との連携			
	第3週	障害者自立支援法の概要と今後の福祉及び障害児者福祉施設の体系と施設の役割、障害者の生活について			
	第4週	障害者自立支援法での障害児施設の機能について			
	第5週	社会的養護の必要な子どもたちのための施設とその生活・乳児院の現状・			
	第6週	社会的養護の必要な子どもたちのための施設とその生活・乳児院の課題、将来の施設像・			
	第7週	社会的養護の必要な子どもたちのための施設とその生活・情緒障害児短期治療施設の現状			
	第8週	社会的養護の必要な子どもたちのための施設とその生活・児童養護施設の現状と生活			
	第9週	社会的養護の必要な子どもたちのための施設とその生活・児童養護施設の課題、将来の施設像			
	第10週	里親(専門里親)のドラマから里親と養護施設の生活を考える			
	第11週	里親制度について			
	第12週	新しい動き・施設型グループホームと里親ファミリーホーム			
	第13週	福祉施設での体罰の事例から、「施設職員像」を考える			
	第14週	上尾保育所での死亡事故（平成17年）の事例から福祉施設職員の仕事を考えてみる			
	第15週	上尾保育所での死亡事故（平成17年）の事例から福祉施設職員の仕事を考えてみる			
指導方法 履修上の 注意	<p>福祉施設として、乳児院、情緒障害児短期治療施設、児童養護施設を中心に、里親制度の概要について授業内容を絞っておこなう。施設の概要、対象児・者の理解のためにDVDを活用する。施設内での体罰の事例については、新聞記事を中心にその都度出していく。全国のここ数年の保育所での死亡事故事例を通して、「上尾保育所事故調査委員会報告書」から、福祉現場(含保育所)では働く「職員」のありがたから、自分の近い将来の取り組みの土台を考え得るような授業を行う。</p>				
成績評価の方法	レポート（80%）、授業態度（20%）				
教科書	授業でプリント配布				
参考文献					

授業科目	地 域 福 祉	単位数	2	担当教員	秋 山 展 子
講義のねらいと概要	本講義では地域福祉の発展過程を踏まえながら、将来の展望を示し、社会福祉に必要な知識を学ぶことを目的としている。				
授業計画	第1週	新しい社会福祉システム			
	第2週	地域福祉の基本的な考え方			
	第3週	地域福祉の主体と福祉教育			
	第4週	行政組織と民間組織の役割と実際			
	第5週	コミュニティソーシャルワークと専門職の役割			
	第6週	住民の参加と方法			
	第7週	ソーシャルサポートネットワーク			
	第8週	地域における社会資源活用・調整・開発			
	第9週	地域における福祉ニーズの把握方法と実			
	第10週	地域トータルケアシステムの構築と実際			
	第11週	地域における福祉サービスの評価方法			
	第12週	地域における福祉サービスの実際			
	第13週	日本の地域福祉に影響を与えた海外の考え方			
	第14週	福祉によるまちづくりとソーシャルアクション			
	第15週	試験およびこれまでのまとめ			
指導方法 履修上の 注 意					
成績評価の 方 法	筆記試験（60%）、レポート（10%）、授業態度（30%）				
教 科 書	授業でプリント配布				
参 考 文 献	『新・社会福祉士養成講座 第9巻 地域福祉の理論と方法 第2版』（社会福祉士養成講座編集委員会 編集、中央法規出版）				



授業科目	保育施設経営論	単位数	2	担当教員	福田 武比古
講義のねらいと概要	<p>近年、保育を取りまく動向はめまぐるしく変化している。少子化は進行し、これらに対応するために、児童福祉法の改正、次世代育成支援対策推進法、少子化社会対策基本法等の制定などが相次ぎ、子育ての社会的支援がクローズアップされてきた。一方、地方分権と規制改革の波は保育界にも押し寄せており、保育施設（保育所・幼稚園・認定こども園）の経営にも大きな影響を与えている。</p> <p>本授業では、少子化対策・子育ての社会的支援の主要な柱である保育施設の経営について、あらゆる角度から考えるとともに、保育をめぐる様々な問題について考察し理解する。</p>				
授業計画	第1週	少子・高齢社会と子育ての社会的支援			
	第2週	保育制度と保育の歴史、保育施設（保育所・幼稚園・認定こども園）の機能			
	第3週	保育や子どもをめぐる最近の動向と保育施設の経営			
	第4週	保育施設経営と地方分権・規制改革			
	第5週	保育施設経営と幼保一元化・直接契約・直接補助			
	第6週	保育施設における労務管理と人間関係			
	第7週	保育者の育成・資質向上（自己評価・第三者評価等）			
	第8週	保育施設経営とリスクマネジメント（保健活動・事故防止・安全管理等）			
	第9週	保育ニーズの多様化への対応			
	第10週	地域の子育て支援活動			
	第11週	保育施設経営と財務管理			
	第12週	地域協働のネットワーキング及び保護者・関係機関との連携			
	第13週	保育サービスの質の向上			
	第14週	保育施設の情報管理			
	第15週	保育関連施策と特別保育事業			
指導方法 履修上の 注意	<p>1. 教科書及び参考文献その他の資料に基づき講義</p> <p>2. 必要に応じて、バズセッション等の演習</p>				
成績評価の 方法	レポート（60%）、授業態度（40%）				
教科書	授業時に配布するプリント				
参考文献	『保育所保育指針』、『幼稚園教育要領』				

授業科目	児童文化（感受性開発を含む）	単位数	2	担当教員	高原典子
講義のねらいと概要	<p>現代では、子ども特有の遊びや児童文化財、すなわち児童文化が、一生を通じてあらゆる人の遊び心を育み、生活や人間関係に潤いを与えるものとして新たに見直されています。</p> <p>この教科では、児童文化伝承に果たしてきた子どもの役割を知り、同時に保育実践の場で、子ども達に時に適った援助ができるような保育実技の力も磨いていきます。絵本・児童文学・紙芝居・パネルシアター・エプロンシアター・手あそび、玩具・折り紙など、児童文化財の歴史や内容を学ぶと共に、制作すること、演じることなどを通して、保育者として必要とされる豊かな感性も身につけていきます。</p>				
授業計画	第1週	<子ども観の変遷と児童文化について> 教科書『児童文化』P9～15、P42～43	第16週	前期の復習テストとまとめ	
	第2週	<児童文化財としての絵本について>絵本の歴史、特色、種類について。教科書P67～71	第17週	<春の子どもの遊びと生活での児童文化>日本の節句、年中行事について。教科書P47～53	
	第3週	<児童文化財としての絵本について>絵本の読み語りについて学び、二人で読み合う演習	第18週	<夏の子どもの遊びと生活での児童文化>夏の子どもの遊びと行事など。教科書P54～57	
	第4週	<絵本を読み語る演習（グループワーク）>集団の前で実際に読み語る演習を行う。	第19週	<秋の子どもの遊びと生活での児童文化>「七五三」「ハロウィーン」ほか。教科書P58～62	
	第5週	<児童文化財としての玩具について>玩具の歴史、子どもの発達と玩具。教科書P89～95	第20週	<冬の子どもの遊びと生活での児童文化>「クリスマス」「正月」ほか。教科書P63～66	
	第6週	<手づくり玩具について>手づくり玩具の意義について考え、制作する。教科書P95～112	第21週	<小テストとまとめ>「四季の子どもの遊びと生活での児童文化」について。	
	第7週	<児童文化財としての折り紙について>折り紙の歴史を学び、制作する。教科書P171～174	第22週	<児童文化財としての児童文学>日本の昔話とお伽藪について。教科書P134～136	
	第8週	<児童文化財としての紙芝居について>紙芝居の歴史と演じ方について。教科書P143～147	第23週	<児童文化財としての児童文学>グリムの昔話とグリム兄弟について。	
	第9週	<人形劇エプロンシアターの理論と演じ方>教科書P159～163、デモンストレーション	第24週	<児童文化財としての児童文学>グリムの昔話と昔話絵本について。	
	第10週	<児童文化財としてのアニメについて>「となりにトトロ」も視聴。教科書176～181	第25週	<児童文化財としての児童文学>アンデルセンの生涯と作品。教科書P114～117	
	第11週	<「となりのトトロ」に観る子どもの文化>「となりのトトロ」の背景と子どもの遊びについて	第26週	<児童文化財としての児童文学>アンデルセン童話を読む。教科書P114～117	
	第12週	<人形劇パネルシアターの理論と演じ方>教科書P163、デモンストレーション	第27週	パネルシアターの実演	
	第13週	パネルシアターの絵人形制作	第28週	パネルシアターの実演	
	第14週	パネルシアターの絵人形制作	第29週	お話の創作とお話リレーについて	
	第15週	パネルシアターのお話人形制作	第30週	お話の創作演習	
指導方法履修上の注意	<p>前期においては5週目以降、一人ひとり絵本の読み語りを行い、後期においては、「パネルシアター」の個人実演を行います。単位取得のために実演は欠かせませんので、各自よく練習をして臨んでください。また授業の中で絵本や折り紙などを使う場合には、各自忘れずに準備してくる。なおパネルシアターは、制作費として約1,500円が自己負担となります。</p>				
成績評価の方法	筆記試験（40%）、実技（20%）、レポート（20%） 授業態度（20%）				
教科書	『児童文化』（三上利秋編著、保育出版社）、『みんなで手遊びワン・ツー・トン』（妹尾美智子・市川恭子著、ドレミ楽譜出版）				
参考文献	『児童文化』（皆川美恵子ほか著、ななみ書房）、『演習 児童文化』（小川清実編、萌文書林） 『昔話の深層 ユング心理学とグリム童話』（河合隼雄著 講談社プラスアルファ文庫）				

授業科目	インターンシップ I	単位数	2	担当教員	星野 治																														
講義のねらいと概要	<p>インターンシップは、単なる「職業体験」にとどまらず、近年厳しさを増しつつある「就職活動」を疑似的に体験するための、よい機会でもあります。</p> <p>履修者各自が事業体の方々と実際の仕事を体験することを通して、自身の内にしっかりした職業意識を育て、自分が目指す就職とはどのようなものかを認識することを目的としています。</p>																																		
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>【ガイダンス(1)】 インターンシップの意義、今後の予定、その他。</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>【ガイダンス(2)】 インターンシップ実習報告会(前回実習の参加者による体験発表)の聴講、その他。</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>【実習申し込み】 第一志望の職種だけにこだわらず、いろいろな職種での体験就業に挑戦することをお奨めします。</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>【選考試験】 学科専任教員による学内面接を行います。</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>【実習先事業体の決定】 他学科(文化表現学科)のインターンシップ実習実施分と併せて告知されます。</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>【事前指導(1)】 誓約書および身上書の作成・提出。</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>【事前指導(2)】 諸注意事項の確認、必要な事務手続きの説明、実習日誌の作成要領、社会人としての基本マナーの確認など。</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>【体験就業(現場実習)】</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>※ 現場実習は長期休業期間(夏季または春季)を利用して、計10日間以上実施します。 (具体的な実施期間は、実習先事業体ごとに異なります)</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>※ 実習期間が他の学外実習や学園行事と重複する場合は、実習開始前に日程を調整します。 (原則として、国家資格・国家免許の取得に必要な実習が最優先されます)</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>※ 実習先事業体によっては、実習開始前に必要な研修等を行う場合があります。</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>※ 実習中の活動内容は、所定の実習日誌に記述します。実習日誌は実習終了後に、実習先事業体の評価を経て大学へ提出していただきます。</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>【事後指導(1)】 実習先事業体担当者および本学教員による実習状況の評価。</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>【事後指導(2)】 インターンシップ実習報告会の実施(日時・場所は別途通知します)。</td> </tr> </table>					第1回	【ガイダンス(1)】 インターンシップの意義、今後の予定、その他。	第2回	【ガイダンス(2)】 インターンシップ実習報告会(前回実習の参加者による体験発表)の聴講、その他。	第3回	【実習申し込み】 第一志望の職種だけにこだわらず、いろいろな職種での体験就業に挑戦することをお奨めします。	第4回	【選考試験】 学科専任教員による学内面接を行います。	第5回	【実習先事業体の決定】 他学科(文化表現学科)のインターンシップ実習実施分と併せて告知されます。	第6回	【事前指導(1)】 誓約書および身上書の作成・提出。	第7回	【事前指導(2)】 諸注意事項の確認、必要な事務手続きの説明、実習日誌の作成要領、社会人としての基本マナーの確認など。	第8回	【体験就業(現場実習)】	第9回	※ 現場実習は長期休業期間(夏季または春季)を利用して、計10日間以上実施します。 (具体的な実施期間は、実習先事業体ごとに異なります)	第10回	※ 実習期間が他の学外実習や学園行事と重複する場合は、実習開始前に日程を調整します。 (原則として、国家資格・国家免許の取得に必要な実習が最優先されます)	第11回	※ 実習先事業体によっては、実習開始前に必要な研修等を行う場合があります。	第12回	※ 実習中の活動内容は、所定の実習日誌に記述します。実習日誌は実習終了後に、実習先事業体の評価を経て大学へ提出していただきます。	第13回		第14回	【事後指導(1)】 実習先事業体担当者および本学教員による実習状況の評価。	第15回	【事後指導(2)】 インターンシップ実習報告会の実施(日時・場所は別途通知します)。
第1回	【ガイダンス(1)】 インターンシップの意義、今後の予定、その他。																																		
第2回	【ガイダンス(2)】 インターンシップ実習報告会(前回実習の参加者による体験発表)の聴講、その他。																																		
第3回	【実習申し込み】 第一志望の職種だけにこだわらず、いろいろな職種での体験就業に挑戦することをお奨めします。																																		
第4回	【選考試験】 学科専任教員による学内面接を行います。																																		
第5回	【実習先事業体の決定】 他学科(文化表現学科)のインターンシップ実習実施分と併せて告知されます。																																		
第6回	【事前指導(1)】 誓約書および身上書の作成・提出。																																		
第7回	【事前指導(2)】 諸注意事項の確認、必要な事務手続きの説明、実習日誌の作成要領、社会人としての基本マナーの確認など。																																		
第8回	【体験就業(現場実習)】																																		
第9回	※ 現場実習は長期休業期間(夏季または春季)を利用して、計10日間以上実施します。 (具体的な実施期間は、実習先事業体ごとに異なります)																																		
第10回	※ 実習期間が他の学外実習や学園行事と重複する場合は、実習開始前に日程を調整します。 (原則として、国家資格・国家免許の取得に必要な実習が最優先されます)																																		
第11回	※ 実習先事業体によっては、実習開始前に必要な研修等を行う場合があります。																																		
第12回	※ 実習中の活動内容は、所定の実習日誌に記述します。実習日誌は実習終了後に、実習先事業体の評価を経て大学へ提出していただきます。																																		
第13回																																			
第14回	【事後指導(1)】 実習先事業体担当者および本学教員による実習状況の評価。																																		
第15回	【事後指導(2)】 インターンシップ実習報告会の実施(日時・場所は別途通知します)。																																		
指導方法 履修上の 注 意	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業(講義形式)は、不定期に開講されます。具体的な開講日時・開講場所については、そのつど掲示等で通知します。</li> <li>2. 夏季実習へ参加するには、前期に実施される選考試験を受験して合格する必要があります。春季実習へ参加するには、後期に実施される選考試験を受験して合格する必要があります。</li> <li>3. 選考試験の成績によっては、必ずしも志望どおりの受入先事業体にならない場合や、実習派遣そのものが規制される場合があります。</li> <li>4. 受け入れ学生を“短期間の就労者”あるいは“将来の就職希望者”という観点から評価する事業体が増えているので、本学のイメージを損なうことのないよう、現場においては常に責任ある言動を取るようお願いいたします。</li> </ol>																																		
成績評価の 方 法	レポート(60%)、発表(20%)、授業態度(20%)																																		
教 科 書	必要に応じて指定します。																																		
参 考 文 献	必要に応じて随時紹介します。																																		

授業科目	インターンシップⅡ	単位数	2	担当教員	星野 治
講義のねらいと概要	『インターンシップⅠ』で得られた「就業体験」を活かして、さらに二度目のインターンシップを体験しながら、履修者各自の卒業後の進路を模索するための確固たる職業意識を持つことを目指します。				
授業計画	第1回	【ガイダンス(1)】 インターンシップの意義、今後の予定、その他。			
	第2回	【ガイダンス(2)】 インターンシップ実習報告会(前回実習の参加者による体験発表)の聴講、その他。			
	第3回	【実習申し込み】 第一志望の職種だけでなく、いろいろな職種での体験就業に挑戦することをお奨めします。			
	第4回	【選考試験】 学科専任教員による学内面接を行います。			
	第5回	【実習先事業体の決定】 他学科(文化表現学科)のインターンシップ実習実施分と併せて告知されます。			
	第6回	【事前指導(1)】 誓約書および身上書の作成・提出。			
	第7回	【事前指導(2)】 諸注意事項の確認、必要な事務手続きの説明、実習日誌の作成要領、社会人としての基本マナーの確認など。			
	第8回	【体験就業(現場実習)】			
	第9回	※ 現場実習は長期休業期間(夏季または春季)を利用して、計10日間以上実施します。 (具体的な実施期間は、実習先事業体ごとに異なります)			
	第10回	※ 実習期間が他の学外実習や学園行事と重複する場合は、実習開始前に日程を調整します。 (原則として、国家資格・国家免許の取得に必要な実習が最優先されます)			
	第11回	※ 実習先事業体によっては、実習開始前に必要な研修等を行う場合があります。			
	第12回	※ 実習中の活動内容は、所定の実習日誌に記述します。実習日誌は実習終了後に、実習先事業体の評価を経て大学へ提出していただきます。			
	第13回				
	第14回	【事後指導(1)】 実習先事業体担当者および本学教員による実習状況の評価。			
	第15回	【事後指導(2)】 インターンシップ実習報告会の実施(日時・場所は別途通知します)。			
指導方法 履修上の 注 意	<p>本科目を履修するためには、履修科目登録の時点で、次の[1]または[2]のいずれか一方に該当することが必要です。</p> <p>[1] 『インターンシップⅠ』の単位(2単位)を修得済みであること。</p> <p>[2] 『インターンシップⅠ』の現場実習(夏季または春季)を終了して、評価待ち(単位修得見込み)の状態であること。</p> <p>その他、諸注意事項の詳細は『インターンシップⅠ』と共通です。 『インターンシップⅠ』の講義要項を、併せて参照願います。</p>				
成績評価の方法	レポート(60%)、発表(20%)、授業態度(20%)				
教科書	必要に応じて指定します。				
参考文献	必要に応じて随時紹介します。				

授業科目	レクリエーション論	単位数	2	担当教員	新 戸 信 之
講義のねらいと概要	過去の経験により形成された「レクリエーション」の概念を検証するとともに、レクリエーション運動の歴史を紐解きながら、様々な領域・場面におけるレクリエーション活動の意義や効果・必要性について、企画方法・実技とも連動させ、体系的に学習する。				
授業計画	第1週	オリエンテーション 自由とレクリエーション			
	第2週	レクリエーションとは何か レクリエーション略史			
	第3週	レクリエーション支援の構造			
	第4週	領域別レクリエーション			
	第5週	ライフスタイルとレクリエーション			
	第6週	健康スポーツとレクリエーション			
	第7週	セラピューティックレクリエーション APIE プロセス			
	第8週	レクリエーションの価値とニーズ 財の分類			
	第9週	レクリエーション事業とは			
	第10週	レクリエーション事業計画			
	第11週	レクリエーション行動のメカニズム			
	第12週	コミュニケーションスキルとホスピタリティ			
	第13週	レクリエーションワーカーの資質 安全管理			
	第14週	支援プログラム案の作成方法			
	第15週	試験 まとめ			
指導方法 履修上の 注 意					
成績評価の 方 法	筆記試験（80%）、課題（5%）、授業態度（15%）				
教 科 書	『レクリエーション支援の基礎』（日本レクリエーション協会、日本レクリエーション協会）				
参 考 文 献	『レクリエーション概論』（園田碩哉・小池和幸・池良弘・涌井忠昭著、ヘルス・システム研究所） 『レクリエーション学の方法』（日本レクリエーション学会、ぎょうせい）				

授業科目	レクリエーション実技		単位数	2	担当教員	新 戸 信 之
講義のねらいと概要	<p>前期は、様々なレクリエーション財を体験し、それぞれの持つおもしろさや効果を感じることを目的とし、後期は、日時・場所・対象など、支援現場に即した状況でロールプレイをすることにより、現場対応力を身につけることを目的とする。</p> <p>1年を通して、レクリエーションを学んだ者のスペシャリティとなり得るスキルを習得することを目的とする。</p>					
授業計画	第1週	オリエンテーション コミュニケーション・ワーク(個人 グループ)	第16週	レクリエーションプログラム案の作成 支援プログラム評価の視点について		
	第2週	動的グループ・ゲーム	第17週	ロールプレイによるレクリエーション支援体験 の準備・リハーサル		
	第3週	静的グループ・ゲーム	第18週	ロールプレイによるレクリエーション支援体験： グループ		
	第4週	イニシアティブ・ゲーム	第19週	ロールプレイによるレクリエーション支援体験： グループ		
	第5週	グループ・ワーク・トレーニング	第20週	ロールプレイによるレクリエーション支援体験： グループ		
	第6週	レクリエーション・スポーツ	第21週	ロールプレイによるレクリエーション支援体験： グループ		
	第7週	レクリエーション・スポーツ	第22週	ロールプレイによるレクリエーション支援体験： グループ		
	第8週	身近な物を利用して遊ぶ	第23週	ロールプレイによるレクリエーション支援体験： グループ		
	第9週	知的レクリエーション財	第24週	ロールプレイによるレクリエーション支援体験： グループ		
	第10週	レクダンスをつくる	第25週	ロールプレイによるレクリエーション支援体験： グループ		
	第11週	レクダンスの発表	第26週	ロールプレイによるレクリエーション支援体験： グループ		
	第12週	携帯電話の機能を使ったアクティビティ	第27週	ロールプレイによるレクリエーション支援体験： グループ		
	第13週	創造的レクリエーション財(絵画)	第28週	レクリエーション支援のポイント		
	第14週	創造的レクリエーション財(造形)	第29週	試験 まとめ		
	第15週	レクリエーションプログラム案の作成方法	第30週	チャレンジ・ザ・ゲーム		
指導方法 履修上の 注 意						
成績評価の 方 法	筆記試験(30%)、課題(5%)、発表(50%)、実技(5%)、授業態度(10%)					
教科書	『レクリエーション支援の基礎』(日本レクリエーション協会、日本レクリエーション協会) 『たのしい!!レクリエーションゲーム集』(日本レクリエーション協会、日本レクリエーション協会)					
参考文献	『ファシリテーターの道具箱』(森 時彦、ファシリテーターの道具研究会)、『アイスブレイク入門』(今村 光章、解放出版社)					